

163
575

鵜飼猛編纂

両刃の劔

東京 教文館 發行

021332-000-5

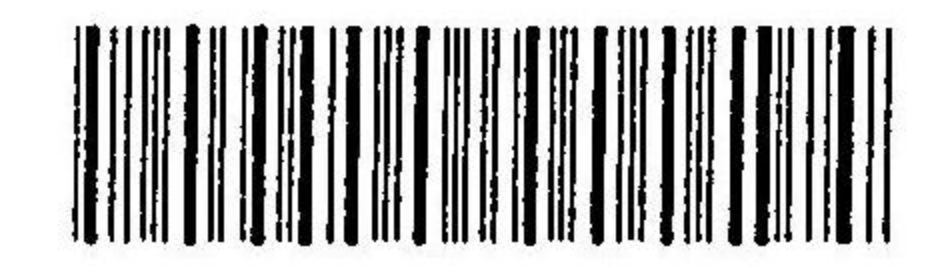
特18-334

両刃の劔

鵜飼 猛/編

M29

ABI-1218



特

両刃の劔例言

一、本書のドルーリー氏著役者手引并にピンチース

學海等と参考書とし編纂せるものなり

一、本書の目的の信徒并に求道者をして聖書の金言を各部

門題目に付て容易に見出さしむると重要な教理を曉り

易からしめんとするにあり

下書中用語未熟にして意義判明ならざる所多からん事を

恐る者幸に之を恕せよ

明治廿九年六月

鵜飼 猛 識



両刃の劍目次

神

一、存在の天啓	一
二、性質	三
イ、自然性	三
ロ、惟一	三
ハ、永遠	五
ニ、無所不在	六
三、全知	七
ホ、全能	八
ヘ、不變	九
ト、無形	十

チ、不可測知

チ、不可測知	十一
ろ、徳性	十二
イ、智慧	十二
ロ、良善	十三
ハ、全聖	十三
ニ、公義	十四
ホ、慈悲	十五
ヘ、愛	十五
ト、眞實	十七
基督	十七
一、完全なる人	十七

二、完全なる神	十八
イ、神と同一	十八
ろ、徳性	十九
イ、永遠	十九
ロ、名稱	二十
ハ、無處不在	二十
ニ、全知	二十
ホ、全能	二十一
ヘ、智慧	二十一
ト、全聖	二十一
チ、公義	二十一
リ、眞實	二十二

ヌ、良善	二十二
三、眞の神人	二十二
四、約束の救主	二十三
五、十字架上の死	二十四
六、復活	二十六
七、昇天	二十七
八、血に由て贖はる	二十七
九、我儕の祭司	二十九
十、我儕の中保者	三十
十一、我儕の保恵師	三十
十二、我儕の禱告者	三十一
十三、再來	三十一

イ、身を以て	三十一
ろ、信者の希望	三十三
ハ、忠誠心の鼓動	三十四
ニ、安慰	三十五
十四、基督の愛	三十六
イ、彼に屬る者に對して	三十六
ろ、罪人に對して	三十七
十五、現在の救主	三十八
十六、惟一の救主	三十八
十七、何をイエスの爲し能ふ乎	三十九
人	四十
一、造られしと	四十

二、墮落	四十一
三、罪とい何んや	四十二
四、罪の性質	四十三
五、萬人皆な阿責の下にあり	四十四
六、罪を愛すると	四十五
七、罪に由て汚さると	四十六
八、迷ひ又助け無さと	四十七
九、罪の判定	四十八
十、罪の結果	四十九
イ、現世に於て	四十九
ろ、死	五十
ハ、來世に於て	五十一

救……………五十四

一、招請……………五十四

二、現在の救……………五十六

三、恩寵に由て……………五十七

四、救の條件……………五十八

い、悔改……………五十九

ろ、信仰……………六十

は、祈禱……………六十一

に、白狀……………六十二

は、柔順……………六十四

五、救の利益……………六十四

い、罪の赦し……………六十四

ろ、生命……………六十五

は、罪より自由になると……………六十六

に、潔ると……………六十七

は、平安……………六十七

へ、力……………六十八

ど、光……………六十九

ち、パン……………七十

り、大膽……………七十

ぬ、服事に於ての喜……………七十一

る、勝利……………七十二

を、永遠の賞……………七十二

六、更改……………七十三

七、更改の證據……………七十四

八、義とせらるること……………七十六

九、新に生るること……………七十七

い、其必要……………七十七

ろ、其根源……………七十八

は、其有様……………七十九

に、其結果……………八十

は、神の道に由て……………八十一

十、子たると……………八十一

十一、確信……………八十二

十二、聖とせらるること……………八十四

十三、基督信者の忍耐……………八十五

基督信者の生涯……………八十六

一、潔生涯……………八十六

二、祈禱の生涯……………八十七

三、信仰の生涯……………八十八

四、克己の生涯……………八十九

五、世より聖別せられし生涯……………九十

六、献身……………九十一

七、服事の生涯……………九十二

八、福音の望……………九十三

九、信仰の戦……………九十四

十、背教墮落……………九十五

十一、背教者回復……………九十六

十二、信任	九十七
十三、感謝	九十八
十四、頌賛	九十九
十五、證明	百
基督信者の活動	
一、畑	百一
二、勞者	百一
三、勞働の法方	百二
四、勞者の精神	百二
五、個人的傳道	百三
六、勞働に要する力	百四
七、勞働の結果	百五
聖霊	
八、福音宣傳	百六
九、献納	百七
い、義務	百七
る、誰に與ふべきや	百八
は、何程	百九
に、心得	百十
は、福祉	百十
へ、摸範	百十一
十、忠信	百十二
十一、忠信の賞	百十三
聖霊	百十四
一、人の罪を責め又人を して罪を曉らしむ	百十五

二、人と争ふ	百十五
三、罪人の心を新にす	百十六
四、神に受納られしを證す	百十六
五、信者の心に住る	百十七
六、教師	百十七
七、案内者	百十八
八、印	百十八
九、基督の證者	百十九
十、信者をして善果を結ばしむ	百二十
十一、役者を指導す	百二十
十三、祈禱者を助く	百二十一
十四、役者に準備を與ふ	百二十一
神の道	
十五、祈禱者に與へらる	百二十二
神の道	百二十二
一、默示	百二十三
二、潔聖	百二十三
三、永久存在	百二十四
四、聽て又順ふべきと	百二十四
五、道に由て生るゝと	百二十五
六、道に由て潔らるゝと	百二十六
七、救はれし者を守る力	百二十六
八、甘く且つ養となると	百二十七
九、人の徳を建つ	百二十八
十、役者を完成す	百二十八

い、個人的傳道に向て……………百二十九
 ろ、普通傳道に向て……………百二十九
 十一、道の力……………百三十
 十二、約束の福祉……………百三十
 い、凡ての約束の貴
 く且つ眞實なり……………百三十
 ろ、罪人に向て……………百三十一
 は、背教墮落者に向て……………百三十二
 に、信者に向て……………百三十二
 イ、恩恵……………百三十二
 ロ、平安……………百三十三
 ハ、安全……………百三十三
 ニ、祈禱に向ての應答……………百三十四

ホ、試中の保持……………百三十四
 ヘ、困苦中の保持……………百三十五
 ト、安息……………百三十六
 チ、氣力……………百三十六
 リ、智慧……………百三十六
 ス、指導……………百三十七
 ル、安慰……………百三十七
 ヲ、欣喜……………百三十八
 ヲ、誘惑に勝つと……………百三十八
 カ、死に勝つと……………百三十九
 ヨ、榮光……………百四十
 ク、復活……………百四十

レ、天國……………百四十一

求道者助言……………百四十二

一、汝の罪人なり……………百四十二
 二、罪の結果……………百四十二
 三、神の汝を愛す……………百四十三
 四、救の汝の爲なり……………百四十三
 五、今の救の時なり……………百四十四
 六、救の信仰に由て來る……………百四十四
 七、無用の言譯……………百四十五
 い、信者中に偽善者多し……………百四十五
 ろ、異論多し……………百四十六
 は、支度未だなり……………百四十六

に、我罪は余に大なり……………百四十七

は、我罪の苦惱を感……………百四十七

へ、新に生べしと云ふ……………百四十八

と、我の大なる罪……………百四十八

ち、疑惑多し……………百四十九

り、世の物を見捨て難し……………百四十九

ぬ、如何に爲すべ……………百五十

る、信すると能はず……………百五十

を、猶便宜の時を待ん……………百五十一

八、聖書研究の必要……………百五十一

附録

實地 應用 基督信徒の義務……………百五十二

一、教會に屬すべし……………百五十二

二、バプテスマを受くべし……………百五十三

三、聖晚餐を守るべし……………百五十四

四、兄弟の愛を働かすべし……………百五十五

玉手箱……………百五十六

兩刃の劍目次終

兩刃の劍

神

一、存在の天啓

元始に神天地を創造たまへり、うらせしき一、

然バ汝今日知て心に思念べし上の天下の地においてエホバの神にいましうの外にの

神有こと無し、まんめいさ四、三九

エホバ宣給く、なんぢらに、わが證人わがえらみし僕なり然バなんぢら知てわれを

信じわが主なるをさとりうべし、我よりまへにつくられし神なく我よりのちにもあ

ることなからん、さるゝ四三、一〇

未だ神を見し人あらず惟うみ給へる獨子すなわち父の懷に在者のみ之を彰せり、よ

いねでん一、一八

神

われ途を行き爾曹が敬拜どころの者を見しに識ざる神にと刻書し一の祭壇を見出せり故に爾曹が識ずして敬ふ此者を我なんぢらに示さんうれ宇宙と其中の萬物を造り給る神は是天地の主なれば手にて造れる殿に住たまはずかつ衆人に生命と氣息と萬物を予たまへば物に乏きことなし人の手にて事らるるものに非ず、まどぎやうでん一七、二三―二五

うれ人の見ことを得ざる神の永能と其神性との造られたる物により創世より以來さとり得て明かに見べし是故に人を推誘べきやうなし、ろま一、二〇
 我儕に於ては惟一の神すなわち父あるのみ萬物これより生われら之に歸す又ひとりの主即ちイエスキリストあり萬物これに由われらも之に由り、こりんど前八、六
 凡う家の之を建れる者あり萬物を造れる者の神なり、へぶらゐ三、四
 われら信仰に由て諸の世界の神の言にて造れ如此みゆる所のもの見べき物に由て造れざることを知、へぶらゐ三一、三

愚なるもの心のうちに神なしと入り、まへん一四、一

二、性質

イ、自然性

イ、惟一

汝にこの事を示さしエホバのすなわち神にしての外には有ることなしと汝に知しめんがためなりき、まんめいさ四、三五

イスラエルよ聴け我らの神エホバの惟一のエホバなり、まんめいさ六、四

汝ら今觀よ我の外の神なし殺すこと活すこと撃つこと愈すこと凡て我これを爲す我手より救ひ出すことを得る者あらず、まんめいさ三二、三九

而してヒゼキヤ、エホバの前に祈りて言けるのケルビムの間にいますイスラエルの神エホバよ世の國々の中において只汝のみ神にますなり汝の天地を造かたまひし者にします、れつわうと下一九、一五

エホバイスラエルの王イスラエルをわがなふもの萬軍のエホバ如此いひたまふわれ
 の始なり、われ終あり、われの外に神あることなし、いざや四四、六
 なんぢら懼るゝなかれ懼るゝなかれ我いにしへより聞せたるにわらずや告しにわらず
 や、なんぢらわが證人なり、われのはか神あらんや、我のはかに磐わらず、わ
 れその一つだに知ことなし、いざや四四、八
 われのエホバなり我のはかに神あし一人もなし汝われを去らすといへども我なんぢ
 を固うせん、いざや四五、五
 神と稱るもの或天に在あるひの地に在て多の神おほくの主あるが如しと雖も我儕
 に於て惟一の神すあち父あるのみ萬物これより生われら之に歸す又ひとりの主
 即ちイエスキリストあり萬物これに由われらも之に由り、こりんと前八、五一六
 神すあち萬人の父一なり彼の萬人の上にあり萬人に貫き萬人の中に在、
 四、六
 えべり

なんぢ神の惟一ありと信す如此信するの善し、やこふ二、一九

ロ、永遠

永久に在す神の住所あり下に永遠の腕あり敵人を汝の前より驅はらひて言たまふ
 滅ばせよと、しんめい三三三、二七

山いまだ生いせず汝いまだ地と世界とをつくりたまひざりしとき永遠よりとこしへ
 までなんぢの神なり、しへん九〇、二

願くは萬世の王すなわち朽す見ざる一の神に窮なく尊貴き榮光あらんことをアメン、
 てもて前一、一七

主たる神いひ給へり我のアルバ也オメガなり始あり終なり今あり昔あり後ある全能
 の者なり、もくしろく一、八

獨一死ざるもの近くことを得ざる光に在して人いまだ見しことなく又見こと能ざる
 者なり、てもて前六、一六

無所不在

神果して地のの上に住たまふや、視よ天も諸の天の天も爾を容るに足す況て我が建たる此家をや、れつわらさ上八、二七

我いづこにゆきてなんぢの聖靈をはなれんや、われいづこに往てなんぢの前をのがれんやわれ天にのぼるとも汝かしこにいまし、われわが榻を陰府にまうくるとも視よなんぢ彼處にいます我あけはの翼をかりて海のはてにすむともかしこにて尙なんぢの手われをみちびき汝のみぎの手われをたもちたまへん、しへん一三九、七一〇

エホバいひたまふ我いたと近くにおいてのみ神たらんや遠くに於ても神たるにあらずやエホバいひたまふ人我に見られざる様に密なる處に身を匿し得るかエホバいひたまふ我の天地に充るにあらずや、えれみや二三、二三一―二四
また一の血脈より出し凡の民を悉く地の全面に住せ預じめ其時と住どころの界とを

定め給へり此の人をして神を求めしめ彼等が或の揣摩する事あらん爲なり然ども神の我儕各人を離るること遠からざる也、まどきやうでん一七、二六―二七

二、全知

エホバの全世界を偏く見うなりし己にひかいて心を全うする者のために力を顯したまふ、れみだし下二六、九

エホバよなんぢの我をさぐり我をまりたまへりなんぢのわが坐るをも立をもまり又どほくよりわが念をわきまへたまふなんぢのわが歩むをもわが臥をもさぐりいだし、わがぬるくの途をことごとく知たまへりうのわが舌に一言ありとも視よエホバよなんぢのことごとく知たまふなんぢの前より後よりわれをかこみ、わが上にうの手をおきたまへりかぐる知識のいとくすしくして我にすぐ、また高くして及ぶことあたはず、まへん一三九、二―六

エホバの目の何處にもありて悪人と善人とを鑑みる、まげん一五、三

神の世の始より其すべての所作を知らせしめり、
 また物として神の前に顯れざるのなし我儕が係れる者の眼の前に凡のものの裸にて露
 る、へふらう四、一三、

我儕が心もし我儕を責ば神の我儕が心よりも大なるにより凡の事を告知せざるなし、
 よいね一書三、二〇、

ホ、全能

我の全能の神なり汝我前に行みて完全かれよ、ううせき一七、一、

神の心慧く力強くましますなり誰か神に逆らひてその身安からんや、よふき九、四
 今よりわれの主なり、わが手より救ひいだし得るものなし、われ行い誰かどよむ
 ることを得んや、うらや四三、一三、

われ我大なる能力と伸たる臂をもて地と地の上にをる人と獸とをつくり我心のまゝ
 に地を人にあたへたり、えれみや二七、五、

地上の居民の凡て無き者のごとし天の衆群にも地の居民にも彼らの意のまゝに事
 をなしたまふ誰か彼の手をおさへて汝なん不然するやと言ふことを得る者なし、だ
 にある四、三五、

イエス彼等を見て曰けるは是人に能はざる所なり然るに神に能はざる所なし、
 またいでん一九、二六、

へ、不變

神の人のごとく語ることを死したる人の子のごとく悔ること有するの言とてその之を
 行はざらんやその語るところの之を成就ざらんや、みんすらうき二三、一九、

またイスラエルの能力たる者の言はざらざるにあらざればくゆることな
 し、よむる一五、二九、

汝いにしへ地の基をすゑたまへり、天もまたなんぢの手の工なりこれらに亡びん、さ
 れど汝のつねに存らへたまへん、これらみな衣のごとくふるびん、汝これらを袍

のごとく更たまひん、されば彼等のかはらん然れども汝のかはることなし、なんぢの齡よほひをばらざるなり、まへん一〇二、二五―二七
 ろれわれエホバの易らざる者なり、故にヤコブの子等よ汝らに亡ほろほされず、まらさ
 三、六
 凡すべの善賜よきたまひと全き賜まことたまひのみな上より諸の光明ひかりの父より降くだるなり父の變かはること無なまた轉動まはて顯あらはるゝ影かげもなき者なり、やこぶ一、一七

ト、無形

又言たまひく汝のわが面かほを見ることあたはず我を見て生いく人あらずさればなり而してエホバ言たまひけるの視みよ我が傍かたはらに一の處あり汝磐いはの上うへに立たつべし吾榮光わがさかえ其處そこを過とほる時ときに我われなんぢを磐いはの穴あなにいれ我が過とほる時ときにわが手てをもて汝を蔽おほはん而してわが手てを除のく時ときに汝わが背後うしろを見るべし吾面わがかほを見るべきにあらず、まゆつゝとぶとと三三、二〇―二三

未だ神を見し人あらず惟ただうみ給へる獨子ひとりごすなはち父の懷みこころに在ある者のみ之を彰あせり、

よはねでん一、一八

神かみの靈れいなれば拜ほひする者もまた靈れいと眞まことをもて之を拜ほひすべき也、よはねでん四、二四
 獨一死ただひとりのまざるもの近ちかくことを得えざる光ひかりに在あして人いまだ見みしことなく又見みること能あたざる者なり、てもて前六、一六

天、不可測知

なんぢ神かみの深事よからことを窮きはむるを得んや、全能者せんのかみを全まことく窮きはむることを得んや、ろの高たかきこと天てんのごとし、汝なんぢなにを爲なし得んや、其深そのよかきこと陰府よみのごとし、汝なんぢなにを知しえんや、よぶま二一、七一―八

神かみの大おほなる者ものにいまして我われ儕らかれを知したてまつらす、ろの御年みとしの數かずも計はかり知るべからず、よぶま三六、二六

エホバに大おほにましますせよ最もともほむべきかな、ろの大おほなること尋ねたることかたし、

まへん一四五、三
 あく神の智と識の富の深かな其法度の測り難く其踪跡の索ね難し孰か主の心を知し
 孰か彼と共に議ることを爲しや、ろま一一、三三

ろ、徳性

イ、智慧

エホバよなんぢの事跡のいかに多なる、これらの皆なんぢの智慧にてつくりたまへ
 り、汝のもろくの富の地にみつ、まへん一〇四、二四

エホバ智慧をもて地をさだめ、聰明をもて天を置たまへり、まんげん三、一九

エホバのろの能をもて地をつくり其智慧をもて世界を建てろの明哲をもて天を舒べ
 たまへり、えれみや一〇、一一

即ちダニエル應へて言けるの永遠より永遠にいたるまでこの神の御名の讃まつるべ
 きなり智慧と権能のこれが有なればなり、だにゑる二、二〇

あく神の智と識の富の深かな其法度の測り難く其踪跡の索ね難し孰か主の心を知し
 孰か彼と共に議ることを爲しや、ろま一一、三三―三四

ロ、良善

エホバの義と公平とをこのみたまふ、ろの仁慈のあまねく地にみつ、まへん三三、

五

猛者よなんぢ何なればあしき企圖をもて自らほこるや神のあはれみの恒にたえざる
 なり、まへん五二、一

彼に曰けるの何故われを善と稱や一人の外に善者のなし即ち神なり、またいでん
 一九、一七

ハ、全聖

エホバよ神の中に誰か汝に如ものあらん誰か汝のごとく聖して榮あり讃べくして威
 ありて奇事を行なふ者あらんや、まゆつるじぶとさ一五、一一

エホバのろのため救贖をはきてし、ろの契約をどこしへに立たまへり、エホバの名の聖にしてあがむべきなり、まへん二一一、九

爾曹を召給ふ聖者に效て凡の行を潔すべし、ペテる前一、一五

主よ誰か爾を畏ざらんや誰か爾の名を崇ざらんや唯なんぢ聖し萬國の民なんぢの前に來りて拜せん爾の義き行爲すでに顯れたり、もくしろく一五、四

二、公義

エホバの盤にましましてろの御行爲の完くろの道のみを正しまた眞實なる神にましまして悪きところ無し只正くして直くいすす、まへんめいさ三二、四

神あに審判を曲たまらんや、全能者あに公義を曲たまらんや、よぶさ八、三

義と公平のあんぢの寶座のもとのなり、あわれみと眞實との聖顔のまへにあらわれ

ゆく、まへん八九、一四

我また聲ありて祭壇より出るを聞き曰く然り主たる全能の神よ爾の審判の正かつ義

ありもくしろく一六、七

ホ、慈悲

汝の神エホバの慈悲ある神なれば汝を棄す汝を滅さすまた汝の先祖に誓ひたりし契約を忘れたまひざるべし、まへんめいさ四、三一

あま主よあわれみも亦なんぢにあり、なんぢの人おのくの作にしたがひて報をな

したまへばなり、まへん六二、一二

贖べきかな神われらの主イエスキリストの父かれ其大なる矜恤を以て我儕を再び生我儕をしてイエスキリストの甦り給ひしことに由て活る望を得させ亦われらの爲に天に藏ある朽す汚れす衰へざる嗣業を得しめ給ふなり、ペテる前一、三一四

ハ、愛

愛なき者の神を識す神の即ち愛なれば也、よはね一書四、八

遠方よりエホバ我に顯れていひたまふ我窮なき愛をもて汝を愛せり故にわれたえず

汝をめぐむなり、えれみや三一、三
 うれ神の生の生たまへる獨子を賜はゞに世の人を愛し給へり此の凡て彼を信する者に
 亡るること無し、永生を受しめんが爲なり、よはねでん三、一六
 然ぞキリストの我儕のなは罪人たる時われらの爲に死たまへり神の之によりて其愛
 を彰し給ふ、ろま五、八
 此外また言ん兄弟よ爾曹喜び且全なり且慰め且心を同うし且和睦ことをせよ然らば
 愛と平安の神なんぢらと偕に在ん、こりんど後二三、二
 然るに矜恤に富る神われらを愛する所の大なる愛に縁罪に死し時にすら我儕をキリ
 ストと偕に生し、(なんぢら恩に由て救れし也)、えへう二、四
 我儕の爲に神の有る愛を我儕すでに知て信す神の即ち愛なり凡る愛にをる者の神に
 をり神また彼に居、よはね一書四、一六
 われら神を愛するの彼まづ我儕を愛するに因り、よはね一書四、一九

ト、眞實

エホバのめぐみふかくの憐憫かぎりなく、その眞實よろづ世におよぶべければな
 り、えへん一〇〇、五
 エホバよ汝のわが神なり我なんぢを崇めなんぢの名をほめたくへん、汝さきに妙な
 る事をおこなひ古時より定めたることを眞實をもて成たまひたればなり、いざや二
 五、一
 われら信せずと雖も彼の誠なり彼の己に違ふこと能ざる也と、てもて後二、二三
 誑なき神の創世の前に約束し給ひし永生を望めり、てどす二、二

基督

一、完全なる人

うれ道肉體と成て我儕の間に寄れり我儕の榮を見に實に父の生たまへる獨子の榮

にして恩寵と眞理にて充り、よはねでん一、一四
然ども期すでに至るに及びて神の子を遣し給へり彼の女より生れ且律法の下に服
したり、がらてや四、四

反て己を虚らし僕の貌をとりて人の如くなれり既に人の如き形状にて現れ己を卑し
死に至るまで順ひ十字架の死をさへ受るに至れり、びりび二、七―八

かれの侮られて人にすてられ悲哀の人にして病患をしれり、いざや五三、三

引照 またいでん一、一八一―二五。 いざや九、六。 全七、一四。 よはねでん四、

六。 全一一、三五。 一九、三三。 全一九、四二。

二、完全なる神

三、神と同一

太初に道あり道の神と偕にあり道の即ち神なり、よはねでん一、一
列祖の是かれらが先祖なり肉體に因て言バキリストも亦彼等より出かれの萬物の上

に在て世々讚美を得べき神なりアーメン、ろま九、五

の神の充足る徳の悉く形體をなしてキリストに住り、ころさい二、九

彼の神の體にて居しかども自ら其神と匹く在どころの事を棄難きことと意はず、び

りび二、六

神肉體となりて顯れ靈に因て義とせられ天使に見れ異邦人の中に宣傳へられ世の人
に信せられ榮光の中に擧られ給へり、てもて前書三、一六

引照 てとす二、一〇。 へぶら五、一八。 よはね一書五、二〇

る、徳性

イ、永遠

彼の萬物より先にあり萬物かれに由て存ことを得るなり、ころさい一、一七

引照 いざや九、六。 まいか五、二。 よはね一、一〇八、五八。 へぶら五、七、三〇八、

八。 もくしろく一、八

ロ、名稱

ひとりの嬰兒われらのために生れたり、我儕のひとりの子をわたへられたり、政事の肩にあり、その名の奇妙、また議士、また大能の神、どこしへのちよ、平和の君とくなへられん、いざや九、六

引照もくしろく一、八。全二一、六。全二二、一三。全二、一七。また一、二一三。全二、六。まどぎやうでん三、一五。るかでん二、一一。

ハ、無所不在

蓋わが名の爲に二三人の集れる處に我も其中に在りなり、またいでん一八、二〇天より降り天にをる人の子の外に天に升し者なし、よはねでん三、一三

ニ、全知

イエスラの意を知て曰けるの爾曹いかなれば心に悪を懐ぶや、またいでん九、四引照まかでん二、八。よはねでん二、二四。全六、六四。全一六、三〇。全二六、

一七。

ホ、全能

イエス進て彼等に語りひけるの天のうち地の上の凡の權を我に賜れり、またいでん二八、一八

引照 ろま九、五。えべう一、二二。ころさ一、一六一一八。へぶら一、三

一八

ヘ、智慧

智慧と知識の蓄積の一切キリストに隠れある也、ころさ二、三

ト、全聖

咲ナザレのイエスよ我儕の爾と何の與り有んや爾きたりて我を滅すか我なんぢの誰なる乎を知らぬち神の聖なる者なり、まかでん一、二四

チ、公義

彼また曰われらの列祖の神の爾に神の旨を知しめ彼の義者を見させ其口より出る聲を聞しめん事を定め給へり、
まどぎやうでん二二、一四

リ、眞實

イエス彼に曰ける、我の途なり眞なり生命なり人もし我に由ざれば父の所に往こと能ず、
よはねでん一四、六

ヌ、良善

即ち此ナザレより出たるイエスの神より聖靈と才能を以て膏を沃がれ周遊て善事を行ひ凡て悪魔に憑たる者を愈せり蓋神かれと偕なりしに因、
まどぎやうでん一〇、三八

三、眞の神人

りれ道肉體と成て我儕の間に寄れり我儕の榮を見に實に父の生たまへる獨子の榮にして恩寵と眞理にて充り、
よはねでん一、一四

我イエスわが使者を遣して此事を爾曹諸教會に證す我のダビデの根また其苗裔なり

我の耀く曙の明星なり、
もくしろく二二、一六

其子われらの主イエスキリストを指て示せり彼の肉體に由バダビデの裔より生れ聖善の靈性に由バ甦りし事によりて明かに神の子たること顯れたり、
ろま一、三一

四

四、約束の救主

又我汝と婦の間および汝の苗裔と婦の苗裔の間に怨恨を置ん彼汝の頭を碎き汝の彼の踵を碎かん、
ろうせいさき三、一五

杖ユダを離れず法を立る者ろの足の間をはなることなくしてシロの來る時にまでおよべん彼に諸の民またがふべし、
ろうせいさき四九、一〇

ろの日罪と汚穢を清むる一の泉ダビデの家とエルサレムの居民のために開くべし
まどぎやう一三一、一

天使これに曰ける懼ること勿れわれ萬民に關りたる大なる喜の音を爾曹も告べし
ろれ今日ダビデの邑に於て爾曹の爲に救主うまれ給へり是主たるキリストなり
る
かでん二、一〇—二

婦いひけるキリストと稱するメツシヤの來らん事を知かれ來らん時凡の事を我儕に
告んイエス曰ける爾と語る所の我の其なり、よはねでん四、二五

神の其子を世に遣し給へる世の罪を定んとに非ず彼に由て世を救んが爲なりよ
はねでん三、一七

父爰に其子を遣して世の救主と爲り我儕すでに之を見たり今今の證を作なり、よ
はね一書四、一四

此は加別に救ある事なし蓋天下の人の中に我儕の依頼て救るべき外の名を賜されべ
也、まどぎやうでん四、一二

五、十字架上の死

人を救て己が身を救わたらず若イスラエルの王たらば今十字架より下るべし然る我
儕かれを信せん、またいでん二七、四二

曰ける己に斯録されたり此如キリストの苦難をうけ、るかでん二四、四六

わが爾曹に傳へし我が受し所の事にて其第一の即ち聖書に應てキリスト我儕の罪
のため死、こりんと前書一五、三

また彼の祭司の長の年ごとに他の物の血をもて聖所に入ごとく屢おのれを獻ること
をせずし然らず彼創世より以來まづ苦難を受べきなり然と己を犠牲となして

罪を除かんが爲に今世の季にひとたび顯現たり、へふらい九、二五—二六
我儕なは弱かりし時キリスト定りたる日に及て罪人のために死たまへり、ろま五、
六

キリストの我儕の父なる神は旨に循ひ今の惡世より我儕を救出さんとして我儕の罪の
爲に己が身を捨てたまへり、がらてや一、四

キリスト我儕の爲に己の身を舍給へり是われらを諸の罪より贖ひ出し且己の爲に一民を潔め之をして熱心に善事を行ひしめん爲なり、とどす二、一四
 かれ木の上に懸て我儕の罪を自ら己が身に任給へり是我儕をして罪に死て義に生めん爲なり彼の鞭扑れしに因て爾曹匿れたり、とてる前二、二四

六、復活

天使こたへて婦に曰けるハ爾曹おるる勿れ我なんぢらが十字架に釘られしイエスを尋ることを知彼ハ此に在ず其言る如く甦りたり爾曹きたりて主の置れし處を見よまたいでん二八、五一六
 かれら懼て面を地に伏ければ其人いひけるハ爾曹何ぞ死たる者の中に生たる者を尋るや彼の此に在ず甦りたり、るかでん二四、五一六
 此後イエス復テベリアの湖にて弟子等に己を現せり其現せること左の如し、よはねでん二一、一

既に神のイエスを甦らせ給へり我儕の皆の證人なり、とどぎやうでん二、三二
 イエスの我儕が罪の爲に解され又われらが義と爲られん爲に甦らされたり、るま

四、二五

若キリスト甦らざりしならハ爾曹の信仰ハ徒然なんぢらハ尙罪に居ん、こりんど前書一五、二七

爾曹ハキリストを甦らせ且これに祭を予へ給ひし神をキリストに由て信する者なり是故に爾曹の信仰と望ハ神に由り、とてる前一、二二

七、昇天

イエス彼等を導きベタニヤに至り手を擧て彼等を祝す祝する時かれらを離れ天に擧られたり、るかでん二四、五一―五二

八、血に由て贖はる

蓋人の子の來るも人を役ふ爲に非ず反て人に役われ且おほくの人に代うの命を予て

贖とならん爲なり、まかでん一〇、四五

今この血に頼て我儕義とせられたれば況て彼に由て怒より救る事なからん乎、ろ

ま五、九

然ども今のキリストイエスに在るに遠かりし爾曹イエスの血に由て近けり、え

べう二、二三

ろの恩の豊なるに由て彼にある我儕の血により贖すなりち罪の赦を得なり、え

ろ一、七

爾曹の身の爾曹が神より受たる爾曹の衷にある聖靈の殿にして爾曹の爾曹の属に非

ざることを知る平るの爾曹の價をもて買れたる者なればなり是故に神のものなる

爾曹身に於ても靈魂に於ても神の榮を顯すべし、こりんど前書六、一九—二〇

是故に兄弟よ我儕イエスの血に由て其我儕の爲に開たる新しき生路より慢なる其肉

體を過り憚らずして至聖所に入事を得、へぶらい一〇、一九

羊贖の血を用ず己が血をもて一たび聖所に入て永遠贖をなすことを得たりもし汚

穢に滌て牛および羊の血また焚る牝贖の灰など肉體を潔ることを得べ況て永遠靈に

より瑕なくして己を神に獻しキリストの血の爾曹に活神を奉事せんがため死の行を

去しめて其心を潔ることを爲ざらん乎、へぶらい九、二二—二四

凡る律法に循に諸の物の血を以て潔らる血を流すこと有ざれば赦さる事なし、へ

ぶらい九、二二

蓋なんぢら贖はれて先祖より傳りたる徒さ行より離れし銀や金の如き壞る物に由

に非ず疵なく汚なく羔の如きキリスト寶血に由ることを知べなり、べてろ前書

一、二八—一九

九、我儕の祭司

この旨に適て我儕の潔らる此のイエスキリストの一次おのが肉體を獻しに因てな

り諸の祭司の日ごとに立て奉事をなし少か罪を除くこと能はざる同じ犠牲を屢々獻

く、へぶらう一〇、一一—一二
 我いへる所の肝要の是の如き祭司の長の我儕に在ことなり彼の天に於て大なる威光
 ある者の位の右に坐して聖所に役ふ即ち人の建る所に非ず主の建たまへる所の眞の
 幕屋なり、へぶらう一八、一一—二

十、我儕の中保者

然ど今かれの愈れる約束に基きて立られたる契約の中保となる是の如く彼の勝れた
 る職を得たり、へぶらう一八、六

うれ神の一位なり又神と人との間に一位の中保あり即ち人なるキリストイエスあり、
 てもて前書二、五

十一、我儕の保惠師

わが小子よ我これらの事を爾曹に書贈るは爾曹をして罪を犯すこと莫らしめん爲か
 り若し人罪を犯せば我儕の爲に父の前に保惠師あり即ち義なるイエスキリスト、

よはね一、二、一

十二、我儕の禱告者

彼のおほくの人の罪をおひ愆あるものゝ爲にとりなしをせり、よはねでん一七、
 二〇

我たゞ彼等の爲にのみ祈らず彼等の教に因て我を信する者の爲にも祈なり、
 一五
 や五三、一二

罪を定る者の誰ぞや死て復よみがへり神の右に在て我儕の爲に禱告し給ふキリスト
 ある乎、
 一五
 一八、三四

是故に彼の己に頼て神に就る者の爲に懇求んとて恒に生れば彼等を全く救ひ得なり、
 へぶらう一七、二五

十三、再来

身を以て

わが父の家には第宅おほし然すバ我豫て爾曹に之を告べきなり我亦んぢらの爲に所を備に往もし往て我なんぢらの爲に所を備バ又きたりて爾曹を我に納べし我をる所に爾曹をも居しめんとて也、よはねでん一四、二一三

イエスの昇れる時かれら天を仰ぎ視たりしに白衣を着たる二人の人ありて旁に立曰けるハガリラヤ人よ何故に天を仰て立るや爾曹を離て天に擧られし此イエスの爾曹が彼の天に昇るを見たる其如く亦きたらん、まどぎやうでん一、一〇一一

姦悪なる此世に於て我と我道を耻る者をバ人の子も亦聖使と共に父の榮光をもて來る時之を耻べし、まかでん八、三八

うれ主號令と使長の聲と神の筈を以て自ら天より降らん其時キリストに在て死し者先に甦へり、てさろにけ前四、一六

視よ彼の雲に乗て來る衆の目かれを見ん彼を刺たる者も亦これを見べし且地の諸族これが爲に悲哀んアーメン、もくしろく一、七

ろ、信者の希望

望所の福と大なる神すなはち我儕の救主イエスキリストの榮の顯れん事を望待しむキリスト我儕の爲に己の身を舍給へり是われらを諸の罪より贖ひ出し且己の爲に一民を潔め之をして熱心に善事を行ひしめん爲なり、てとす二、一三一—一四

如此キリストも多の人の罪を負んが爲に一たび犠牲とせらる彼の復罪を負ことなく己を望む者に再び顯現て救を施すべし、へふらい九、二八

ろの子の天より臨るを待と言バ也ろの子の即ち神の死より甦らしる所のイエスにして我儕を來らんとする怒より拯ふ者なり、てさろにけ前一、一〇

われ今祭物とならんとす我が世をさる期ちかづけりわれ既に善戦をたかひ既に馳るべき途程を盡し既に信仰の道を守れり今より後義の冕わが爲に備あり主すなりち正き審判を亦す者ろの日に至りて之を我に予ふ獨われに予るのみならず凡て彼の顯著を慕ふ者にも予ふべし、てもて後書四、六一八

は、忠誠心の鼓動

是故に爾曹の主いづれの時きたるかを知ざれば怠らずして守れ爾曹これを知もし家の主人ぬすびど何の時きたるかを知べ其家を守て破らすまじ、またいでん二四、四二一四三

また願ふ主爾曹の愛を増かつ満しめ爾曹をして互に愛し衆の人を愛すること我儕が爾曹を愛する如ならしめて爾曹の心を堅くし我儕の主イエスの諸の聖徒と偕に來らんとし爾曹をして我儕の神なる父の前に潔して責べき所あからしめん事を、てさるにけ前書三、二二—二三

小子よ恒に主に居べし其顯現時に我儕懼ることなく其降臨時に其前に耻ること莫らん爲なり、よはね一書二、二八
われ迅速に來らん爾が有どころの者を堅く保ちて爾の冕を人に奪ること勿れ、もくしろく三、一二

に、安慰

兄弟よ忍て主に臨るを待べし視よ農夫地の尊き産を得を望みて前と後との雨を得まで久く忍て之を待り爾曹も忍べ爾曹の心を堅せよ蓋主の臨り給ふこと近ければ也、やこぶ五、七一八

爾曹の信仰を試みらるゝの壞る金の火に試みらるるよりも賣くして爾曹イエスキリストの顯れ給はん時に稱讚と尊貴と榮光を得に至らん、へてろ前書一、七

然ば主の來らんとさまで時いまだ至らざる間の審判する勿れ主の幽暗にある隠たる情を照し心の計謀を顯さん其時おのゝ神より譽を得べし、こりんと前書四、五
我儕の命なるキリストの顯れんとさ我儕も之と偕に榮の中に顯るゝ也、ころさ

三、四

うれ主號令と使長の聲と神の筈を以て自ら天より降らん其時キリストも在て死し者先に甦へり後に活て存る我儕かれらと偕に雲に携へられ空中に於て主に遇べし斯て

我儕いつまでも主と偕に居ん是故に此等の言を以て互に慰むべし、
てさるるわけ前
書四、一六一一八

十四、基督の愛

い、彼に属ける者に對して

父の我を愛し給ふ如く我なんぢらを愛す爾曹わが愛にをれ、よはねでん一五、九
キリストの愛より我儕を絶らせん者の誰ぞや患難なるか或は困苦か迫害か飢餓か
裸程か危険か刀劍なる乎是われら終日なんぢの爲に死に付され屠られんとする羊の
如くせらるゝ也と録されたるが如し然ども我儕を愛める者に頼すべて此等の事に勝
得て餘ありうの或は死あるひに生あるひに天使あるひに執政あるひに有能あるひ
に今ある者あるひに後わらん者或は高き或は深また他の受造者の我儕を我主イエス
キリストに頼る神の愛より絶らすること能ざる者なるを我の信せり、ろま八、三
五十三九

キリストの愛われらを働せり我儕思に一人衆の人に代て死たれば衆の人すでに死た
る也、こりんと後書五、一四

ろ、罪人に對して

主エホバ言たまふ我の活く我悪人の死るを悦ばず悪人のろの途を離れて生るを悦ぶ
なり汝ら翻へり翻りてろの悪き道を離れよイスラエルの家よ汝等あんず死べけんや、
えせさる三三、一一

主の約束し給ひし所を成に遅きや或人の遅しと意ふが如くに非ず一人の亡ぶるを
欲み給はず衆人の悔改に至らんことを欲みて我儕を永く忍び給ふなり、
べて
ろ後書三、九

然ぞキリストの我儕のなほ罪人たる時われらの爲に死たまへり神の之よりて其愛
を彰し給ふ、ろま五、八

主の我儕の爲に生を捐たまへり是に由て愛といふ事を知たり、よはね一書三、一六

萬人救をうけ眞理を曉るに至るの神の望み給ふ所なり、
てもて前書二、四

十五、現在の救主

誠に實に爾曹に告ぐ我言をきく我を遣しし者を信する者の永生を有かつ審判に至らず死より生に遷れり、
よはねでん五、二四

汝らもし一心をもて我を索めなば我に尋ね遇はん、
えれみや二九、一三
是故にイエスキリストに在もの罪せらるゝ事なし、
ろま八、一

十六、惟一の救主

イエス彼に曰ける我の途なり眞あり生命あり人もし我に由ざれば父の所に往こと能ず、
よはねでん一四、六

此ほか別に救ある事なし蓋天下の人の中に我儕の依頼て救るべき他の名を賜されば也、
まどぎやうでん四、一二

是故に爾曹己の罪に死んど我いひしかり爾曹もし我の彼あるを信せず己の罪に

死ん、よはねでん八、二四

神の子をもつ者の生を有うの子を有ざる者の生を有ず、
よはね一書五、一二

十七、何をイエスの爲し能ふ乎

願く我儕の中に行ふ能力を循ひて我儕の求るところ思ふ所よりも甚く過れる事を行得る者にキリストイエスより教會の中にて世々窮なく榮を歸せんことをアメン、
えペろ三、一〇—一一

是故に彼の己に頼て神を就る者の爲み懇求んとて恒お生れば彼等を全く救ひ得あり、
へぶらい七、二五

彼等いひけるの主イエスキリストを信せよ然らば爾および爾の家族も救るべし、
まどぎやうでん一六、三一

我に能力を賜へる我儕の主キリストイエスに謝す蓋われを職に任じて忠信なる者となし給へば也、
てもて前一、一二

蓋かれ自ら誘われて艱難を受たれば誘ひる者も助得るなり、へぶらゝ二、一八
彼の萬物を己に服せしむる能に由て我儕が卑き體を化て其榮光の體に象らしむべし、

びりび三、二二

イエス進んで彼等に語りひける、天のうち地の上の凡の權を我に賜れり、
またいで
ん二八、一八

引照 一、二六、一〇。ろま一四、四。てもて後二、二二

人

一、造られしこと

神言給ける、我儕に象りて我儕の像の如くに我儕人を造り之に海の魚と天空の鳥と
家畜と全地と地に備ふ所の諸の昆蟲を治しめんと神其像の如くに人を創造たまへり
即ち神の像の如くに之を創造之を男と女に創造たまへり、ろうせいき一、二六一

二七

エホバ神土の塵を以て人を造り生氣を其鼻に嘘入たまへり人即ち生靈となりぬ、
ろうせいき二、七

二、墮落

又婦に言たまひける、我大に汝の懐妊の劬勞を増すべし汝の苦みて子を産ん又汝の
夫をしたひ彼の汝を治めん又アダムに言たまひける、汝の妻の言を聽て我が汝に
命じて食ふべからずと言たる樹の果を食ひしに縁て土の汝のために誼の汝は一生
のあひだ勞苦て其より食を得ん土の荆棘と薊とを汝のために生ずべしまた汝の野の
草蔬を食ふべし汝の面に汗して食物を食ひ終に土に歸らん其の其中より汝の取れた
ればなり汝の塵なれば塵に皈るべきなりと、ろうせいき三、一六一一
九
斯神其人を逐出しエデンの園の東にケルビムと自から旋轉る燧の劍を置いて生命の樹
の途を保守りたまふ、ろうせいき三、二二四

彼等園の中に日の清涼き時分歩みたまふエホバ神の聲を聞しかバアダムと其妻即ち
 エホバ神の面を避て園の樹の間に身を匿せりエホバ神アダムを召て之に言たまひけ
 る汝の何處にをるや彼いひける我園の中に汝の聲を聞き裸体なるにより懼れて
 身を匿せりと、そうせいさ三、八—十

蛇婦に言けるは汝等必らず死る事あらじ神汝等が之を食ふ日に汝等の目開け汝等
 神の如くなりて善悪を知に至るを知りたまふなりと婦樹を見バ食に善く目に美麗し
 く且智慧からんが爲に慕ひしき樹なるによりて遂に其果實を取て食ひ亦之を己と借
 なる夫に與へければ彼食へり、そうせいさ三、四—六

三、罪どの何んぞや

その肉の事を念ふに神に乖るが故なり是神の律法に服せず又服ふこと能ざるに因而
 して肉にをる者の神の心に適ふこと能はず、ろま八、七—八
 凡ての不義の罪あり、よはね一書五、一七

人善を行ふ事を知て之を行わざるの罪なり、やこぶ四、一七

罪を犯す者の法律を犯す罪どの即ち律法を犯すこと也、よはね一書三、四

心の萬物よりも偽る者にして甚だ悪し誰かこれを知るをえんや、えれみや一七、九

四、罪の性質

あしきもの胎をはなるより背きとはざかり生れいつるより迷ひていつのりをい
 ふ、まへん五八、三

我儕もみな曾て其中にをり肉の慾に循ひて日を送り肉と心の慾ふ任をなし他人の如
 く本性にして怒の子なり、えへろ二、三

アダムに屬る衆の人の死る如くキリストに屬る衆の人の生べし、こりんど前書一

五、二三

然バ是一人より罪の世にいり罪より死の來り人みな罪を犯せば死の凡の人に及たる
 が如し、ろま五、一二

我儕の父の皆同一あるにあらすや、われらを造りし神の同一なるにあらすや、我儕先祖等の契約を破りて各々おのれの兄弟にいつのりを行ふの何ぞ、まらき二、一〇視よわれ邪曲のなかにうまれ罪にありてわが母われをばらみたりき、まへん五一、

五、萬人皆な呵責の下にあり

録して義人あし一人も有なしとあるが如し明達者なく神を求る者なしみ亦曲て全く邪となれり善を作ものなし一人も有なし、ろま三、一〇―一二正義して善をおこなひ罪を犯すことなき人の世にあることなし、でんだうのふみ

七、二〇

ろれ律法の言どころの其下にある者に示すと我儕の知この各人の口塞り又世の人ころりて神の前に罪ある者と定らん爲なり、ろま三、一九

人律法を悉く守るとも若ろの一に墮かば此全を犯すなり、やこぶ二、一〇

賜の一人より來る罪の如きに非ず蓋審判の一の罪より罪せられ賜の多くの罪より義とせらるゝ也もし一人罪を犯しゝにより死この一人に由て王たらんに況て溢るゝの恩と義の賜を受ける者の一人のイエスキリストにより生に在て王たらざらん乎是故に一の罪より罪せらるゝことの凡の人に及し如く一の義より義とせられ生命を獲こども凡の人に及べり、ろま五、一六―一八

ろの人も既に罪を犯せば神より榮を受るに足ず、ろま三、二三もし罪あしと言は是みづから欺けるにて眞理われらに在あしもし罪を犯たることなしと言は神を誑者とする也ろの道われらに在なし、よはね一書一、八一―一〇

六、罪を愛すると

罪の定る所以の光世に臨しに人ろの行の惡に因て光を愛せず反て暗を愛すれば也凡て惡をなす者の光を惡み其行を責られざらんが爲に光に就らず、よはね三、一九―

二〇

これ彼等の神の榮より人の榮を喜るなり、よはねでん一二、四三

七、罪に由て汚さるゝと

又曰ける人より出るものは是人を汚す人の心より出るもの悪念、姦淫、苟合、兇殺、盜竊、貪婪、惡慝、詭譎、好色、嫉妬、謗讟、驕傲、狂妄なり是等の惡行のみ

不内より出て人を汚すもの也、まかでん七、二〇—二三

エホバ天より人の子をのみみて悟るもの神をたづぬる者ありやと見たまひしにみな逆さいでゝことごとく腐れたり、善をなすものなし一人だになし、まへん一四、

二—三

是故に我これを言ひ主に在て爾曹を戒む爾曹今よりのち異邦人の如く其心の邪曲なるに任せて行ふべからずかれら心昏き者なり又知どころ無により頑なるに因て神の生に遠かれり彼等の恥を知らず好て凡の汚を行へん爲に己を放蕩に付せり、まへん四、一七—一九

四、一七—一九

潔人への凡の物さよく汚たる人と不信者に一として潔き物なし既に彼等の心と良心どもに汚れたり、てとす一、一五

なんぢら何予かさねがさね憚りて猶撻れんとするか、頭のやまざる所なく、心の心いつかれはてたり足のうらより頭にいたるまで全きところなく、たゞ創痕と打傷と腫物とのみなり、而してこれを合すものなく包むものなく、亦あぶらにて軟らぐる者もなし、まかや一、五—六

凡て潔らざる者を憎べき行を爲もの或の謊をいふ者の必す此に入ことを得ず唯羔の生命の書に録されたる者のみ入なり、もくしろく二一、二七

八、迷ひ又助け無きと

其時の爾曹キリスト無イヌラエルの籍に非ざる異邦人にして夫の約束につひて結び給ひし契約に興りなく望なく又世に在て神なき者なりき、まへん二、一二

たどひ嘯叫をもて自ら濯ひまたおほくの灰汁を加ふるも汝の惡いわが前に汚れなり

と主エホバに給ふ、えれみや二、二二二
 われの亡れたる羊のごとく迷ひいでぬ、なんぢの僕をたづねたまへ、われ汝のい
 ましめを忘れざればなり、まへん一一九、一七六
 われらみな羊のごとく迷ひておの／＼己が道にむかひゆけり然るにエホバにわれ
 ら凡てのものゝ不義をかれのうへに置たまへり、いざや五三、六
 我儕の福音もし隠ならば沈淪者に隠るゝ也、こりんと後書四、三

九、罪の判定

我また死し者の大と小との別なく皆神の前に立を見たり其處に書ありて展く別に又
 一の書ありて展これ生命の書なり死し者の皆書に録せる所の事に由るの行に循ひて
 審判を受ける也海うの中の死人を出し死と陰府と其中の死人を出せり彼等おの／＼其
 行に循ひて審判を受たり、もくしろく二〇、二二一一三
 之を奇と爲こと勿うの墓に在者みな其聲を聞て出るとき來んとすれば也善事を行し

者ハ生を得に甦り悪事を行し者の罪を得に甦るべし、よのねでん五、二八―二九
 是故に我儕おの／＼己の事を神に訟ふべし、ろま一四、一二
 また我に示したまへるところ是のごとし即ち準繩をもて築ける石垣の上にエホバ立
 ちうの手に準繩を執たまふ、あもす七、七
 人の途におのれの目にことごとく潔しと見ゆ、惟エホバ靈魂をはかりたまふ、ま
 んげん一六、二

パウロ公義と擗節と來んとする審判とを論せしかバペリクス懼て答けるハ爾姑く返
 け我便時を得バ再なんぢを召ん、まどぎやうでん二四、二五

十、罪の結果

い、現世に於て
 自ら欺く勿れ神に慢るべき者に非ず蓋人の種ところの者ハ亦うの稔ところと爲さ
 り、がらてや六、七

かれらの風をまきて狂風をかりとらん種とてろの生長る穀物さくろの穂のみらぞ
 るべしたとひ實るとも他邦人これを呑ん、ほせあ八、七
 かれら心に神を存ることを願ざれば神も彼等が邪僻なる心を懷て行まじきことを行
 に任せ給へり、ろま一、二八
 當時の出る者にも入る者にも平安なく惟大なる苦患くにくの民に臨めり、れさ
 だいし下一五、五

る、死

當時とゼキヤ病て死ふんとせしことありアモツの子預言者イザヤ彼の許にいたりて
 之にいひけるハエホバかく言たまふ汝家の人に遺命をなせ汝の死ん生ることを得じ
 と、れつわらと下二〇、一
 願くわれらにおのが日をかろふことををしへて智慧のころを得しめたまへ、
 亥へん九〇、二二

然バ爾曹も豫じめ備せよ不意とさきに人の子きたらんと爲ばなり、るかでん一二、四

○ なんぢ明日のことを誇るなけれ、ろの一日の生するところの如何なるを知らざればな
 り、まんげん二七、一

は、來世に於て

貧者死たれば天の使者たちに依てアブラハムの懷に送れたり富る人も死て葬られし
 が陰府にて痛苦をうけ其目をあげ遙にアブラハムと其懷に在ラザロを見て喊叫いひ
 けるハ父アブラハムよ我を憐みラザロを遣して其指の尖を水に蘸わが舌を涼しめ給
 へ我この火燄の中お苦めばなりアブラハム曰けるハ子よ爾の生たりし時に爾の福を
 受またラザロの其苦を受しを憶へ今かれの慰られ爾の苦めらるゝなり斯耳ならず此
 より爾曹に涉んとするとも得ず彼より我儕に涉んとするとも亦えざる爲に我儕と爾
 曹との間に限おかれたる巨なる淵あり答けるハ然バ父よ願くハ我父の家ヘラザロを

送たまへ蓋われに五人の兄弟あり亦かれらが此苦の所に來ざる爲にラザロを證據に爲しめよアブラハム曰けるの彼等にのモーセと預言者あれば之に聽べし答けるの然らず父アブラハムよもし死より彼等に往者あらば悔改べしアブラハム曰けるの若モーセと預言者に聽すべ縦ひ死より甦る者ありとも其勸を受ざるべし、るかでん一六、二二一—三二

手に手をあひするとも悪人の罪をまぬかれず、まげん一二、二一

此等の者の窮なき刑罰にいり、またいでん二五、四六

愆すでに孕て罪をうみ罪すでに成て死を生、やこぶ一、一五

罪の價の死あり、ろま六、二三

罪を犯せる靈魂の死べし、えせざる一八、二〇

あしき人の陰府にかへるべし、神をわするともろくの國民もまたまからん、まへん九、一七

若人全世界を得とも其生命を失い何の益あらん乎また人何を以て其生命に易んや、またいでん一六、二六

罽をわしきものうへに降したまひん、火と硫磺ともゆる風どいかれらの酒杯にうくべきものなり、まへん一一、六

途にまた左にをる者に日ん罰せらるべき者よ我を離れて悪魔と其使者の爲に備たる熄ざる火に入よ、またいでん二五、四一

われ懼べき者を爾曹に示さん殺したる後に地獄に投入る權威を有る者を懼よ我まことに爾曹に告ん之を懼べし、るかでん一二、五

然と臆する者信せざる者憎む可もの人を殺すもの奸淫を行ふもの魔術をあす者偶像を拜する者および凡て詭を言もの火と硫磺の燃る池にて其報を受べし是第二の死なり、もくしろく二一、八

あんぢら義からざる者の神の國を嗣ことを得ざるを知らざるか爾曹みづから欺勿れ

凡て淫を行ひ又の偶像を拜またの姦淫をなし又の男娼となり又の男色を行ひ又は盜竊またの貪婪またの沉湎またの辱罵またの勒索者などは皆神の國を嗣ことを得ざる也、こりんと前六、九一—一〇

患難を受る爾曹に我儕と偕に平安を得ことを以て報るの神の公義なればなり此事の主イエス火燄の中にて其能力の諸使と偕に天より顯れん時にあり即ち神を識ざる者および我儕の主イエスキリストの福音に服せざる者に報を予ふかれら主の面と其勢の榮光より離れて窮なく亡る罰を受ん、てさるにけ後一、七一—九

救

一、招請

靈と新嫁といふ來れと之を聞者も來れといへ渴者の來るべし願ふ者の價なしに生命の水を飲べし、もくしろく二三、一七

ナタナエル曰けるのナザレより何の善者いでん乎ピリポ彼に曰けるの來て觀よ、よのね一、四六

イエス立止りて彼を召と命じければ人々替者を召て彼に曰けるの心を安んせよ起イエス爾を召、まか一〇、四九

凡て勞たる者また重を負る者の我に來れ我なんぢら息ません我の心柔和にして謙遜者なれば我軛を負て我に學なんぢら心に平安を獲べし蓋わが軛易わが荷輕ければ也、また一、二八

噫なんぢら渴ける者ことごとく水にきたれ、金なき者もきたるべし汝等きたりてかひ求めてくらへ、きたれ金なく價なくして葡萄酒と乳とをかへなにゆる糧にもあらぬ者のために金をいだし飽ことを得ざるものために勞するや、われに聽従がへ、さらばなんぢら美物をくらふをえ脂をもてるの靈魂をたのしまするを得ん、いざや五五、一

汝も我儕どもに來れ我儕汝をして幸福あらしめん其のエホバイスラエルも福祉を降さんと言たまひたればあり、みんすらさ一〇、二九

速かに邑の衢巷に往て貧者、癩疾、跛者、瞽者あを此に引來れ僕いひける主よ命の如く行り然と尙あまりの座あり主人僕に曰けるは道路や藩籬の邊にゆき強て人々を引來り我家に盈しめよ、るか一四、二一―二三

二、現在の救

かれ曰われ慈惠の時に爾に聽また救の日に爾を助たりと今の恩惠の時なり今の救の日なり、こりんと後六、二

凡て父の我に賜し者の我に就らん我に就る者の我かならざる之を棄す、よね六、三七

イエス彼に曰けるは今日この家すくゆることを得たり蓋この人もアブラハムの裔なれを也、るか一九、九

子を信する者は窮なき生命をえ、よね三、三六

うれ神はうの生たまへる獨子を賜はと世の人を愛し給へり此の凡て彼を信する者に亡ることを無しして永生を受しめんが爲あり、よね三、一六

愛する者よ我儕いま神の子たり後いかな未だ露れず其現れん時に必ず神に肯んことを知るは我儕の眞狀を見れば也、よね一書三、二

三、恩寵に由て

律法のモーセに由て傳り恩寵と眞理のイエスキリストに由て來れり、よね一、一七

律法を立るの罪を増ん爲なり然ども罪の増どころに恩も愈増り、るま五、二〇

なんぢら恩に由て救を得これ信仰に由てなり己に由て非ず神の賜あり、えべろ二、八

彼等の救るゝ如く我儕も主イエスキリストの恩に由て救るゝことを信する也、ま

とぎやうでん一五、一一

されど我の感謝の聲をもて汝に献祭をなし、又わが誓願をなんぢに償さん、救ハエ
ホバより出るなりと、よな二、九

うの恩の豊なるに由て彼にある我儕の血により贖すなりち罪の救を得なり、え
べり一、七

諸の恩恵を予ふる神すあひち爾曹をして暫く苦を受る後キリストイエスにある窮
なき榮に入しめんとして爾曹を招きし神爾曹を全うし堅くし強して基の上に置給ふ
べし、べてろ前五、一〇

然を罪のこの恩賜のこの如きに非ず若し一人の罪に由て死るもの多からば況て
神の恩と一人のイエスキリストに由る恩の賜とい多の人に溢ざらん乎、ろま五、一
五

四、救の條件

五、悔改

故に爾この惡を悔改めて神に祈れ爾の心の念或の赦れん、とぎやうでん八、二二
期ハ満り神の國ハ近けり爾曹悔改めて福音を信せよ、まか一、一五

往者に蒙昧し時の神これを不問に爲給しが今の何處の人にも皆悔改むることを命じ
給ふなり、とぎやうでん二七、三〇

うれ神に循ふ愛ハ悔なきの救を得の悔改に至らしむ然世の愛ハ死に至しむる也、
こりんど後七、一〇

是故に爾曹罪をくい心を改めて其罪を抹ること爲よ蓋主の前より安舒日の來り、
とぎやうでん三、一九

なんぢ神の豊厚なる仁慈と寛容なると恒忍たまふとを藐視する乎の仁慈ハ爾を悔
改に導くなるを知らず、ろま二、四

又うの名に託て悔改と赦罪ハエルサレムより始まり萬國の民に宣傳られん、る

か二四、四七

主エホバあのいひたまふ是故このゆゑに我汝らわれをば各おのろの道みちにまがひて審さくべし汝らなんぢらの諸もろの
咎とがを悔改くわいかいめよ然しかに惡汝らあくを蹟つまずかせて滅ほろすことなかるべし汝等なんぢらの行なひし諸もろの罪つみを棄すて
去さり新あらたしき心こころと新あらたしき靈魂たましいを起おこすべしイスラエルいすらえの家いへよ汝らなんぢらなんぢ死まじべけんや我われの
死者まじりの死しを好このまざるなり然されに汝らなんぢら悔くわいて生いよ主エホバしゆこれと言いふ、えせざる一八、三〇
—三二

る、信仰

イエスい婦ごに曰いけるい爾なんぢの信まんぢを救すくへ安あん然ぜんにして往ゆ、るか七、五〇〇
彼かれを接あひるの名なを信まんぢ者ものは權ちからを賜たまひて此こゝを神かみれ子こと爲なり、よはね一、二二
信まんじてバプテスマばを受うける者ものは救すくはれ信まんぢざる者ものは罪つみに定さだまる也、まか一六、一六
イエスい直ただに其告つげる所ところの言ことをきく會堂くわいどうの宰つかさどに曰いけるい懼おそるな勿なたま信まんぢよ、まかで
ん五、二六

然されと工はたらき者ものも不よ義ぎなる者ものを義よとする神かみを信まんじて其信まんぢを義よと爲なされたり、るま四

五、

信まんぢなくい神かみを悦よろこばすこと能あたはず蓋おほ神かみに來きたる者ものは神かみあるを信まんぢ且かつ神かみの必かならず己おのれを求もとむ
者ものに報むくひを賜たまふ者ものなるを信まんぢべければ也、へぶら一、一六

彼等かれらいひけるい主しゆイエスキリストいを信まんぢよ然しかに爾なんぢおよび爾なんぢの家族かぞくも救すくはるべし、

まどぎやうでん一六、三二

誠まことに實まことに爾曹なんぢらに告つげん我言わがことばをきく我われを遣つかはしめる者ものを信まんぢる者ものは永かぎく生なを有あり審判さんぱんに至いた
らず死まより生いのちに遷うつれり、よはね五、二四

は、祈禱

わが不よ義ぎのおほいなり、エホバいよ名なのためために之これをゆるしたまへ、まへん二五、一一
わが神かみよわがためために清心けいしんをつくり、わが裏うらになほさ鱈たいをあらたにおこしたまへ、

まへん五一、一〇

なんぢら遇あひまことをうる間にエホバを尋ねよ近くぬたまふ間によびもとめよ、
や五五、六

凡て主の名を願ねが求る者たすの救るべし、
ろま一〇、一三

うの時ときわれエホバの名をよべり、エホバよ願ねがくわが靈魂たましひをすくひたまへとエホバの恩恵めぐみゆたかにして公義たてまましませり、われらの神かみのあはれみ深し、
まへん一一六、

四一五

斯かくてイエスに曰いけるの汝なんぢの國くにに來きたん時我を憶おもたまへイエス答こたけるの誠まことに我われなんぢに告つげん今日けふなんぢの我われと偕いっしょに樂園パラダイスに在あるべし、
るか二二三、四二一—四三

稅吏みづかの遠とほに立たて天てんをも仰あやぎ見みせ其胸むねを拊うちて神かみよ罪人ざいじんなる我われを憐あはれ給たまへと曰いり我われなんぢらに告つげん此人このひとの彼人かのひとより義ぎと爲なりて家いえに歸かへりたり夫それすべて自己みづかをたか高たかる者ものの卑ひられ自己みづかを卑ひす者ものの高たからるべし、
るか一八、一三一—一四

に、白狀はくじやう

若もしこれらの一ひとつにおいて辜つみある時ときの某これの事ことにおいて罪つみを犯をせりと言いわらはし、
れび
き五、五

もし己おのれの罪つみを認いひささへ神かみの信實まことなる公義たてま者ものなるが故ゆゑに必ず我儕われらの罪つみを赦ゆるし諸すべての不義よまじより我儕われらを潔きよむべし、
よはね一書一、九

蓋まもし爾口このくちにて主まイエスを認いひし又またなんぢ心こころにて神かみの彼かれを死しより甦よみがらしむを信ませば救すくるべしわれ人ひとの心こころに信まじて義ぎとせられ口くちに認いひして救すくるとなり聖書せいしょに凡すべて彼かれを信まする者ものの辱はづかしめられじと云いひ、
ろま一〇、九一—一〇

凡おほろイエスを神かみの子こなりと認いひす者ものの神かみかれに居をり居をり神かみに居をる、
よはね一書四、一

五
然しかば凡すべろ人ひとの前まへに我われを識しる言いは言いは者ものを我われも亦また天てんに在ある我父わがちちの前まへに之これを識しる言いは言いは人ひとの前まへに我われを識しると言いは者ものを我われも亦また天てんに在ある我父わがちちの前まへに之これを識しると言いはべし、
また一〇、

三二—三三

は、柔順

唯われこの事を彼等に命じ汝ら我聲を聽べわれ汝らの神となり汝ら我民とならん且
わが汝らに命せしすべての道を行みて福祉をうべしといへり、
ろま五、二二三
なんぢら身を献げ僕となり誰に従ふとも其従ふ所の僕たるを知らざるか或の罪の僕と
ならべ死に及び或の順の僕とならべ義に及べん然ども我神に感謝す爾曹の素罪の僕
たりしかど今既授られし所の教の範に心より服ひて、
ろま六、一六―一七

五、救の利益

い、罪の赦

我儕の子に由て贖すなりち罪の赦を得なり、
ころさ一、一四
互に仁慈と憐恤あるべしキリストに在て神なんぢらを赦し給へる如く爾曹も互に赦
すべし、
えへう四、三二

なんぢら前に諸の罪と身に割禮なきとに因て死たる者なり然ど神爾曹をして凡の

罪を赦し彼と偕に生しめ、
ころさ三、一三

わがたましひよエホバを讀まつれ、
うのすべての恩恵をわするくなかれエホバのな
んぢがすべての不義をゆるし汝のすべての疾をいやし、
まへん一〇三、二―三

ろ、生命

肉の事を念ふり死なり靈の事を念ふり生なり安なり、
ろま八、六

神の徳と罪に死し所の爾曹をも生し給へり、
えへう二、五

罪の價り死なり神の賜り我儕の主イエスキリストに於て賜り永生なり、
ろま

六、三三

これ罪の死をもて宰れる如く思も我儕が主イエスキリストに頼て永生に至らせ
んが爲に義をもて宰れり、
ろま五、二二

竊賊の來るに盗んとし殺さんとし滅さんとするの他なし我きたるに羊をして生を得
かつ豊ならしめんが爲なり、
よはね一〇、一〇

罪に死し時にすら我儕をキリストと偕に生し(なんぢら恩に由て救れし也)、
えべ
う二、八

我キリストと偕に十字架に釘られたり既われ生るに非ずキリスト我に在て生るなり
今われ肉體に在て生るの我を愛して我が爲に己を捨し者すなり神の子を信するに
由て生るなり、
がらてや二、二〇

は、罪より自由となること

主の即ち彼の靈なり主の靈ある所に自由あり、
こりんど後三、一七

かつ眞理を識ん眞理の爾曹に自由を得させし、
よはね八、三三

是故に子もし爾曹に自由を賜なば爾曹誠に自由を得べし、
よはね八、三六

イエスキリスト我儕を釋て自由を得させたり是故に爾曹堅立て復び奴隸の軛に繋
るゝ勿れ、
がらてや五、一

爾曹が受し靈の奴たる者の如く復び懼を懐く靈に非ずアバ父とよぶ子たる者の靈な

り、
ろま八、一五

に、潔ると

かれ我儕が行ひし所の義き功に由す唯うの矜恤に循ひ重生の洗と聖靈に由て新に
する事とを以て我儕を救へり、
てとす三、五

若神の光に在が如く光の中を行かば我儕互に同心となるを得かつ其子イエスキリ

ストの血すべて罪より我儕を潔む、
よはね一書一、七

爾曹のうち前に此の如き者ありしかども主イエスの名に頼かつ我儕の神の靈に因
て洗滌また潔り又義と爲ことを得たり、
こりんど後六、一一

われ答けるの君よ爾これを知べし彼われに日けるの彼等の大なる艱難を経て來れり
曾て羔の血にて其衣を滌これを白なせる者なり、
もくしろく七、一四

は、平安

願くは平安の主のねに何事に拘す爾曹に平安を賜んことを願くは主爾曹と偕に在ん

ことを、てさるにけ三、一六
 是故に我儕信仰に由て義とせられたれ、神と和々ことを得たり此の我主イエスキ
 リストに頼てなり、ろま五、一
 神より出て人の凡て思ふ所に過る平安の爾曹の心と意をキリストイエスに因て守
 らん、びりび四、七
 われ此事を爾曹に語し、爾曹をして我に在て平安を得させんが爲なり爾曹世に在て
 の患難を受ん然と懼るゝ勿れ我すでに世に勝り、よはね一六、三三
 われ平安を爾曹に遺す我平安を爾曹に予ふ我あたふる所の世の予る所の如きに非ず
 爾曹心に憂る勿れ又懼るゝ勿れ、よはね一四、二七
 へ、カ
 エホバのわが生命のちからなり、わが懼るべきものたれずや、まへん二七、一
 我の我に力を予るキリストに因て諸の事を爲得るなり、びりび四、一三

此他なほ言ん我兄弟よ主および其大なる能に頼て剛健なるべし、えべろ六、一〇
 我に言給ひけるの我が恩なんぢに足り蓋わが能の弱に於て全なれば也この故に寧ろ
 欣びて自己の弱に誇らん是キリストの能われに寓らん爲なり、こりんど後一二、九
 と、光
 爾曹もど暗かりしが今主に在て光れり光の子輩の如く行ふべし、えべろ五、八
 爾曹みな光の子ども晝の子ども也われら夜に属るもの暗に属る者に非ず、てさる
 にけ前五、五
 イエスマた人々に語て曰けるの我の世の光なり我に従ふ者の暗中を行す生の光を得
 なり、よはね八、一二
 爾曹の選れたる族王なる祭司聖民神に属る者なり此の爾曹をして召て幽暗より出し
 其異光に入給ひし者己の徳を顯さしめん爲に爾曹を此の如き者となし給へる也
 べてろ前二、九

我の生命のパンなり爾曹の先祖の野にてマナを食しかど死り凡て食者をして死ざらしむる者の天より降れるパンなり我の天より降り生るパンなり若人このパンを食ひば窮なく生べし我あたふるパンの我肉なり世の生命の爲に我これを賜へん、よはね六、四八―五一

わが肉を食わが血を飲者永 生あり我末の日に之を甦らすべし夫わが肉の誠の食物また我血の誠の飲物なりわが肉を食ひ我血を飲者我にをり我も亦かれに居生る父われを遺す父に由て我生る如く我を食ふ者も我に由て生べしこれ天より降れるパンなり爾曹の先祖が食たれど尙死しマナの如きものに非ず此パンを食ふ者の窮なく生べし、よはねでん六、五四―五八

り、大膽

ペテロと使徒たち答て曰ける人に従ふより神に従ふの爲べきの事なり、

やうでん五、二九

我の福音を恥とせず此福音のユダヤ人を始ギリシヤ人すべて信する者を救んどの神の大能たれば也、ろま一、一六

主エホバわれを助けたまはん、この故にわれ恥ることなかるべし我わが面を石のごとくして恥しめらるることなきを知る、いざや五〇、七

パウロ答けるの爾曹なんぞ哭て我心を摧くや我主イエスの名の爲にの第に縛るゝ耳ならずエルサレムに死るも亦甘する所なり、

ぬ、服事に於ての喜

マリヤ曰けるの我心主を崇め我靈のわが救主なる神を喜ぶ、

四七

さんぢのわが心ふあたへたまひし歡喜のかれらの穀物と酒との豊かなる時にまざりき、

爾曹イエスを見ざれども之を愛し今見ずといへども信じて喜ぶ其快樂の言がたく且
榮光あり、べてろ前一、八

ろの神の靈に由て役事をなしキリストイエスに由て誇り肉躰に恃ざる我儕の眞の
割禮を受たる者なれば也、びりび三、三

る、勝利

我儕をして我主イエスキリストに由て勝を得しむる神に謝す、こりんど前一五、五

七

小子よ爾曹の神より出また彼等に勝ことを得たり蓋なんぢらの衷に居もの世の衷
ふをる者より大なるお因てなり、よはね一書四、四

凡る神に由て生るる者世に勝我儕をして世に勝しむる者の我儕が信なり誰か能世
に勝んイエスを神の子と信する者に非ずや、よはね一書五、四

を、永遠の賞

なんぢら牧者の長の顯れん時お壞ることなき榮の冠冕を得ん、べてろ前五、四

斯て王その右にをる者に云ん我父に惠るる者よ來りて創世より以來おんぢらの爲に
備られたる國を嗣、またいでん二五、三四

また我儕をして光に在る聖徒の業の分を受るに堪る者とならしめ給ふ父の恩を感謝
せんことを、ころさ一、一二

われら今鏡をもて見ごとく見どころ昏然なり然と彼の時には面を對せて相見ん我
ま知こと全からず然と彼の時ふ我が知るる如く我えらん、こりんど前一三、一二

六、更改

是故に爾曹罪をくい心を改て其罪を抹るることを爲よ蓋主の前より安舒日の來り、
まどきやうでん三、一九

曰ける我まことに爾曹に告んもし改まりて嬰兒の若くあらず天國に入ることを得
じ、またいでん二八、三

さらばわれ懲ををかける者になんぢの途ををしへん罪人のなんぢに歸りきたるべし

まへん五、二三

わが兄弟よ爾曹のうち或の眞の道より迷る者あらん誰か之を引反さば此人知べし
罪人を其迷る道より引反すの乃ち其靈魂を死より救かつ多の罪を掩ふことを、やこ

ぶ五、一九―二〇

七、更改の證據

爾曹もし相愛せば之に因て人々爾曹の我弟子なることを知べし、よはねでん二三、

三五

姦淫を行ふ男女よ爾曹世を友とするの神に敵するなるを知らんや世の友とならん
ことを欲ふ者は神の敵なり、やこぶ四、四

蓋われ内なる人に就ての神は律法を樂めども、ろま七、二二

かれ已に其靈をもて我儕に賜ふ是も由て我儕は彼に居かれの我儕に居ことを知、よ

はね四、二三

又この世に效ふ勿れ爾曹神の全かつ善にして悦ぶべき旨を知んが爲に心を化て新に

せよ、ろま二、二

靈の結ぶ所の果の仁愛、喜樂、平和、忍耐、慈悲、良善、忠信、溫柔、擗節かくの
如き類を禁ずる律法のある事なし、がらてや五、二二―二三

希望の羞を來らせざるを知この我儕に賜ふ所の聖靈も由て神の愛われらの心に灌漑

べなり、ろま五、五

凡る神に由て生るる者ハ罪を犯さず蓋神の種々の衷に存に因かれ亦罪を犯すこと能
はず蓋神に由て生るれば也、よはね一書二、九

われら若るの誠を守らば是に由て彼を識りと自ら曉るべし、よはね一書

凡る神の靈に導かるる者ハ是すなはち神の子なり、ろま八、一四

汝のほかは我たれをか天もたん、地もなんぢの他にわが慕ふものなし、まへん

七三、二五

我誠を有ちて之を守る者の即ち我を愛するなり我を愛する者の我父に愛せらる我も亦これを愛して彼に自己を示すべし、よはねでん一四、二一
 爾曹が受し靈の奴たる者の如く復ひ懼を懐く靈に非ずアバ父とよぶ子たる者の靈なり聖靈みづから我儕の靈と偕に我儕が神の子たるを證す、ろま八、一五一一六
 われら兄弟を愛するに因すでに死を出て生に入しことを自らしる兄弟を愛せざる者は死の中に居、よはね一書三、一四

八、義とせらるること

然と工なき者も不義なる者を義とする神を信じて其信仰を義と爲れたり、ろま四、

五

爾曹モーセの律法に依て義と爲ること能ざる凡の罪も信する者の皆かれも由て赦され義とせらるる也、まどぎやうでん、一三、三九

今うの血に頼て我儕義とせられたれば況て彼に由て怒より救る事なからん乎、ろま、五、九

かれ己がたましひの煩勞をみて心たらはん、わが義しき僕らの知識によりておほくの人を義とし又かれらの不義をおとん、いざや五三、一一

然と人の義とせらるるの律法の行に由に非ず惟イエスキリストを信する自由なるを知この故に我儕も律法の行に由すキリストを信するに由て義とせられんが爲にイエスキリストを信す蓋律法の行に由て義とせらるる者なけれを也、がらでや二、一六

引照 ろま一〇、四。 てとす三、七。 ろま五、一

九、新に生るること

い、其必要

イエス答て白けるの誠に實に爾に告ん人もし新に生ずる神の國を見ることが能はじ、よ

はねでん三三三

エホバ人の惡の地に大なる其心の思念の都て圖維る所の恒に惟惡きのみなるを見たまへり、ろうせいさ六、五

性來のまゝなる人の神の靈の情を受ず是かれに愚なる者と見ればなり又これを知ること能はず蓋靈の情の靈に由て辨みべき者なるが故なり、こりんと前二、一四

ろの肉の事を念ふの神に乖るが故なり是神の律法に服せず又服ふこと能ざるに因而して肉にをる者の神の心に適ふこと能はず、ろま八、七―八

ろ、其根源

斯る人の血脈に由に非ず情慾に由に非ず人の意に由に非ず唯神に由て生れし也、よはねでん一、二三

かれ我儕が行ひし所の義き功に由ず唯ろの矜恤に循ひ重生の洗と聖靈に由て新にする事を以て我儕を救へり、てどす三、五

爾曹キリストに在て縦ひ師の一萬ありども父の多くあることなし蓋われキリスト

イエスに在て福音を以て爾曹を生むなり、こりんと前四、一五

は、其有様

是故に人キリストに在るときに新に造れたる者なり舊の去てみな新しく作なり、こりんと後五、一七

夫イエスキリストに於ての割禮を受るも受ざるも益なく唯新に作れし者のみ益あり、がらてや六、一五

既に爾曹キリストと偕に甦りたれば天に在ものを求むべしキリスト彼處に在て神の右に坐し給へり、こりんと三三、一

我新しき心を汝等に賜ひ新しき靈魂を汝らの衷に賦け汝等の肉より石の心を除きて肉の心を汝らに與へ、えせきえる三六、二六

神の愆と罪に死し所の爾曹をも生し給へり爾曹會て斯世の風俗に循ひ彼の愆と罪を

行ひて日を送り亦空中にある諸權を總宰とる者すなわち信じて従ひざる者の中に今は
 たらく所の靈に循へり我儕もみな會て其中にをり肉の慾に循ひて日を送り肉と心の
 欲ふ任をなし他人の如く本性にして怒の子なり然るに矜恤に富る神われらを受す
 る所の大なる愛に緣罪に死し時にすら我儕をキリストと偕に生し（あんなら恩に由
 て救れし也）へ、えへう二、一—五

に、其結果

神に象りて眞理の義と潔にて造れる新人る衣るべし、えへう四、二四

この新人の愈新になり人を造りし者の像に循ひて知識に至るなり、ころさい三、

一〇

愛する者よ我儕互に相愛すべし愛の神より出れば也おほよ愛ある者の神に由て生
 れ且神を識るなり、よはね一書四、七

凡る神に由て生るる者の罪を犯さず蓋神の種々の衷に存に因かれ亦罪を犯すこと能

はず蓋神に由て生るれば也、よはね一書三、九

凡て神に由て生れたる者の罪を犯さざる事を我儕のしる神に由て生れたる者の自ら
 守かの悪者これに觸れざるを爲ざる也、よはね一書五、一八

は、神の道に由て

エホバの法のまたたくして靈魂をいさかへらしめエホバの證詞にかたくして愚なるも
 のを智からしむ、えへん九一、七

爾曹が再び生るるの壞べき種に由に非ず壞べからざる種すなわち窮なく存つ神の活
 る道に由なり、へてる前一、二三

かれ己の旨に循ひ眞道を以て我儕を生り是我儕をして其造る所の物の中にて初に
 結べる果の如き者とならしめん爲なり、やこぶ一、一八

十、子たると

爾曹の皆キリストイエスを信するに由て神の子となれり、がらてや三、二六

凡^{おほよ}ろ神^{かみ}の靈^{たま}に導^{みちび}かるゝ者^{もの}は是^{これ}すなわち神^{かみ}の子^こなり、
 且^{かつ}なんぢら既^{すで}に子^こたることを得^えしが故^{ゆゑ}に神^{かみ}の子^この靈^{たま}を爾^{なんぢ}曹^{そう}の心^{こころ}に遣^{おく}りアバ父^{ちち}と呼^よしむ是^{このゆゑ}故^{ゆゑ}に爾^{なんぢ}の^もはや僕^{おれ}に非^{あら}ず子^こなり既^{すで}に子^こならば亦^{また}神^{かみ}に由^より嗣^{よつぎ}子^こたる也^{なり}、
 や四^よ、六七

又^{また}なんぢら彼^{かれ}等^らの中^{なか}より出^{いで}て之^{これ}を離^{はな}れ汚^{けが}穢^れに捫^まはさるること勿^なかれ我^{われ}なんぢら^らを納^{おほ}むれ爾^{なんぢ}曹^{そう}の父^{ちち}となり爾^{なんぢ}曹^{そう}わが女^{むすこ}子^こと爲^なるべしと曰^いはる是^{せんりやう}全能^{ぜんりやう}の主^{しゆ}の言^{ことば}なり、
 七^{しち}一^{いち}八^{はち}

なんぢら視^みよ我^{われ}儕^ら稱^{せう}られて神^{かみ}の子^こたることを得^えこれ父^{ちち}の我^{われ}儕^らに賜^{たま}ふ何^{いか}等^{たう}の愛^{あい}を世^よの父^{ちち}を識^しす是^{これ}に由^より我^{われ}儕^らをも識^しざる也^{なり}愛^{あい}する者^{もの}よ我^{われ}儕^らいま神^{かみ}の子^こたり後^{のち}いかん未^{いま}た露^{あらし}れず其^{その}現^{あらは}れん時^{とき}に必^{かなら}ず神^{かみ}に肖^にんことを知^しる我^{われ}儕^らの眞^{まこと}状^{じやう}を見^みべければ也^{なり}、
 ね一^{いち}書^{しよ}三^{さん}、二^に一^{いち}

十一、確信

誠^{まこと}に實^{まこと}に我^{われ}なんぢらに告^{つげ}ん我^{われ}を信^{しん}する者^{もの}の永^{なが}生^{なま}あり、
 よはねでん六^む、四^し七^{しち}

然^{しか}ども惡^{あく}鬼^{おに}の爾^{なんぢ}曹^{そう}に服^{ふく}しゝ事^{こと}の喜^{よろこ}ぶとする勿^なかれ爾^{なんぢ}曹^{そう}が名^なの天^{あま}に録^{ろく}されしを喜^{よろこ}ぶとすべし、
 るかでん一〇、二〇

われ神^{かみ}の子^この名^なを信^{しん}する爾^{なんぢ}曹^{そう}に此^{これ}等^らの事^{こと}を書^{かき}贈^くるの爾^{なんぢ}曹^{そう}に窮^{きつき}なき生^{なま}ある事^{こと}を知^ししめんが爲^{ため}なり、
 よはね一書^{いちしよ}五^ご、一三^{じさん}

凡^{すべ}て神^{かみ}に由^より生^うれたる者^{もの}の罪^{つみ}を犯^{とが}さる事^{こと}を我^{われ}儕^らの神^{かみ}に由^より生^うれたる者^{もの}の自^{みづか}ら守^{まも}るの惡^{あく}者^{もの}をこれに觸^ふることを爲^なさる也^{なり}、
 よはね一書^{いちしよ}五^ご、一八^{じゅうはち}

小子^{せうこ}よ恒^{つね}に主^{しゆ}を居^あるべし其^{その}顯^{あらは}現時^{げんじ}に我^{われ}儕^ら懼^{おそ}るることなく其^{その}降^{くだ}臨^{りん}時^じに其^{その}前^{まへ}に恥^{はづ}れること莫^ならん爲^{ため}なり、
 よはね一書^{いちしよ}二^に、二八^{じゅうはち}

是^{このゆゑ}故^{ゆゑ}に我^{われ}これら^らの苦^{くるしみ}に遇^あはれ然^{しか}ども之^{これ}を恥^{はづ}とせず蓋^{おほ}われ我^{われ}が信^{しん}する者^{もの}を知^しるか我^{われ}かれに託^{たく}したる者^{もの}を彼^{かれ}の日^ひに至^{いた}るまで守^{まも}ることを爲^なし得^えるを信^{しん}すべし也^{なり}、
 てもて後^{のち}一、

一一

引照 よはねでん八、三一—三二。同一〇、一四。同二〇、三〇。同六、四七。
るかでん一〇、二一〇

十二、聖とせらるること

是故にイエスも己の血をもて民を潔んが爲る門の外お苦を受しなり、へぶらう一

三、一一一

我彼等の爲に自己を潔むこれ眞理に因て彼等の聖られん爲なり、よはねでん一七、

一九

爾曹の神に由てキリストイエスに在イエスの神に立られて爾曹の智慧また義また聖

また贖と爲たまへり、こりんと前二、三〇

願くは平安の神さんぢらを全く潔し又なんぢらの全靈全生全身を守りて我儕の主イ

エスキリストの臨らん時に咎なからしめ給んことを、てさるふけ前五、二三

人もし此等を離れて己を潔せと貴きに用る器となり潔して主の用お合ひ諸の善事を

作ことを得あり、てもて後二、一一

然バ愛する者よ我儕この約束を得たれば肉と靈の凡の汚を去て自己を潔くし神を畏

れて聖潔ことを成就すべし、こりんと後七、一

この旨お適て我儕の潔らる此のイエスキリストの一次おのが肉體を獻しに因てな

り、へぶらう一〇、一〇

爾曹のうち前ふの此の如き者ありしかども主イエスの名お頼かつ我儕の神の靈お因

て洗滌また潔り又義と爲ことを得たり、こりんと前六、一一

なんぢら孝子なるに因て従前の蒙味時の慾に效ふことなく爾曹を召給ふ聖者に效て

凡の行を潔すべし、録して我潔ければ爾曹も潔すべしと有るなり、へてろ前一、

一四—一六

十三、基督信者の忍耐

恒お各様の禱告と祈求を以て靈お由て求かつ諸の聖徒の爲も慎みて此事をなし祈

りて倦ざるべし、エペソ六、一八
 是故に我儕かく許多の見證人に雲の如く圍れたれば諸の重負と繁る罪を除き耐忍び
 て我儕の前に置れたる馳場を趨りイエス即ち信仰の先導となりて之を成全する者を
 望むべし彼の其前に置どころの喜樂に因てその耻をも厭えず十字架を忍びて神の寶
 座の右に坐しぬ、ヘブルス二、一三—二二
 爾わが忍耐の言を守しおより我も亦なんぢを守りて地に住人を試みんが爲に全世界
 に臨んとする試煉の時ふ之を免れしむべしわれ迅速み來らん爾が有どころの者を堅
 く保ちて爾の冕を人お奪ふること勿れ、もくしろく三、一〇—一一

基督信者の生涯

一、潔生涯

エホバを畏るゝとの惡を憎むことなり、我の傲慢と驕奢、惡道と虚偽の口とを憎

ひ、まんげん八、一三

諸の惡事の類に遠かるべし、てさろふけ前五、二二

なんぢら不信者と耦なかれ蓋義と不義と何の倍なることか有ん光と暗と何の交こと
 か有んキリストとペリアルと何の合ことか有ん信者と不信者と何の干ることか有
 ん、こりんど後六、一四—一五
 なんぢら衆の人と和睦ことをなし自ら潔らんことを務めよ人もし潔らさば主に見ゆ
 ることを得ざる也、へぶら五、二二—二四

引照 いざや三五、八一—一四。ペテる前一五—一六

二、祈禱の生涯

是故に我なんぢらに告ん凡る祈禱の時うの求ふ所のもの必す得べしと信せよ必す
 得べし、まかでん一一、二四
 斷ず祈るべし、てさろふけ前五、一七

是故に我ねがふ人潔き手を擧て怒なく疑なく何の處にても祈んことを、
二、八

其日なんぢら我に問どころ無るべし誠に實に爾曹に告ん凡ろ我名に託て父に求る所のもの父これを爾曹に授たまふべしなんぢら今まで我名に託て求たることなし求よ然らば受ん而して爾曹の喜び満べし、
よはねでん一六、二三—二四

引照 えせさえる三六、三七。 ろま八、二六。 よはね一書五、一四—一五。 やこ
五五、一六

三、信仰の生涯

なんぢら目を醒し堅く信仰に立て丈夫の如く剛かれ、
こりんど前一六、一三

蓋われら見る所に憑す信仰に憑て歩めば也、
こりんど後五、七

すべて信仰に由てせざる者の罪なり、
ろま一四、二三

若なんぢら信仰に止り其基を定めかつ堅して福音の望より移すば如此せらるること

を得べし此福音の即ち爾曹の開し所なり、
ころさ一、二三

引照 よはね一書五、四。 がらてや二、二〇

四、克己の生涯

もし右の眼なんぢを罪に陥さば拔出して之を棄よ蓋五體の一を失ふに全身を地獄に投入らるるより勝れりもし右の手なんぢを罪に陥さむ之を斷て棄よ蓋五體の一を失ふに全身を地獄に投入らるるより勝れり、
またいでん五、二九—三〇

ペテロ曰ける我儕一切を捨て爾に從へりイエス彼等に曰ける誠に爾曹に告ん凡ろ神の國の爲に家あるひの父母あるひの兄弟あるひの妻あるひの兒女を捨る者の今世にて幾倍をうけ來世に永生を受ざる者なし、
ろかでん一八、二八—三〇

又イエス衆人に曰ける若われに從いたと欲ふ者の己に克て日々の十字架を負て

我に從へるの生命を保全せんと欲者ハ之を喪ひ我ために生命を喪ふ者ハ之を保全すべし、
るかでん九、二三—二四

引照るかでん一四、三三。 さらてや五、二四

五、世より聖別せられし生涯

茲にモーセ營の門に立ち凡てエホバに歸する者ハ我に來れと言けれバレビの子孫みな集りてがれに至る、
きゆつえじぶと三三、二六

人ハ二人の主に事ること能はず蓋これを悪かれを愛み此を親み彼を疎べけれ也なんぢら神と財に兼事ること能はず、
またいでん六、二四

又この世に效ふ勿れ爾曹神の全かつ善にして慨ぶべき旨を知んが爲に心を化て新にせよ、
ろま二二、二

この世あるハ此世にある物を愛する勿れ人もし此世を愛せば父を愛するの愛の裏に在なし凡る世に在もの即ち肉體の慾眼目の慾また勢より起る驕傲これらハ皆父

より出るに非ず世より出るもの也この世と其慾とハ逝るものにて神の旨を行ふ者ハ永遠存るなり、
よはね一書二、一五—一七

なんぢら不信者と耦あかれ蓋義と不義と何の侶なるとか有ん光と暗と何の交ることか有んキリストとペリアルと何の合ことか有ん信者と不信者と何の干ることか有ん

神の殿と偶像と何の同きことか有ん夫なんぢらハ活神の殿なり神嘗て我かれらの中に住り且あゆまん我かれらの神となり彼等わの民とならんと言給ひしが如く又なん

ぢら彼等の中より出て之を離れ汚穢に捫ること勿れ我なんぢらを納んわれ爾曹の父となり爾曹わが子女と爲べしと曰る是全能の主の言なり、
こりんど後六、一四—一八

引照よはね一書四、四—五。 よはね三書二—

六、献身の生涯

イエス答けるハ爾心を盡し精神を盡し意を盡し主なる爾の神を愛すべし、
またい

でん二二、三二七

然バ兄弟よ我神の諸の慈悲をもて爾曹に勸うの身を神の意に適ふ聖き活る祭物となして神に獻は是當然の祭なり、ろま二二、一

汝ら只エホバをかしこみ心をつくして誠にてこれにつかへよ而して如何に大なることをエホバ汝らになしたまひしかを思ふ可し、さむる前一二、二四

七、仕事の生涯

然バ爾曹食ふにも飲にも何事を行ふにも凡て神の榮を顯すやうに行ふべし、こり

んと前一〇、三二

人もし我に事んとせば我に従ふべし我に事る者の我をる所に在ん人もし我に事れば我父の之を貴ぶべし、よはねでん二二、二六

イスラエルよ今汝の神エホバの汝に要めたまふ事の何ぞや惟是のみ即ち汝がらの神エホバを畏れうの一切の道に歩み之を愛し心を盡し精心を盡して汝の神エホバに事

へ、まんめら二〇、二二

八、福音の望

望所の福と大なる神すなち我儕の救主イエスキリストの榮の顯れん事を望待し

じ、てとす二、一三

願く我儕の主イエスキリスト及び我儕の父の神すなち我儕を愛し且恩に因て永遠の安慰と善望を予る者爾曹の心を慰め凡の善行と善言ハ爾曹を堅固せんことを、

てさるにけ後二、一六一一七

然バ神の約束を嗣者に其旨の易らざることを愈表さんとして約束の上になた誓を立給へり神の語ることを能ざる此二件の易なきことの前立どころの望を執んとて怒を

避たる我儕を慰めんが爲あり我儕が此望の靈魂の錨の如し堅固して動かす幔の内に入、へぶら二六、一七一一九

讀べきかな神われらの主イエスキリストの父かれ其大なる矜恤を以て我儕を再び生

我儕をしてイエスキリストの甦り給ひしことに由て活る望を得させ、へてる前一

一三

九、信仰の戦

信仰の善戦をたぐかひ永 生を取べし爾これが爲に召を蒙りたり又多の人の前にて 善證を作たり、てもて前六、一二

爾キリストイエスの精兵卒の如く我と共に苦を忍ぶべし兵卒を務る者の世事を以て 自己を累いせず是募れる者の心を悦べせんと爲べなり、てもて後二、三十四 此他なは言ん我兄弟よ主および其大なる能に頼て剛健なるべしなんぢら悪魔の奸計 を禦ん爲に神の武具を以て装ふべし我儕の血肉と戦ふに非ず 政また權威また斯世 の幽暗を宰ざる者また天の處に在る悪の靈と戦ふなり是故に神の武具を取べし是れ しさ日に遇て敵を禦ぎ凡の事を成就して立ん爲ありあんぢら立に誠を帯として腰に 結び義を護胸として胸に常和平ある福音の備を鞋として足に穿此はか信仰の盾を取

べし此盾をもて悉く悪者の火箭を滅ことを得んまた救の胃および聖靈の劍すきはち 神の道を取、えべろ六、一〇—一七

われ既に善戦をたぐかひ既に馳るべき途程を盡し既に信仰の道を守れり今より後義 の冕わが爲に備あり主すなわち正き審判をあす者うの日に至りて之を我に予ふ獨わ れに予るのみならず凡て彼の顯著を慕ふ者にも予ふべし、てもて後四、七—八

十、背教墮落

義人の信仰に由て生べし若し退かば我が靈魂これを喜とせじ、へぶら五、一〇、三八 汝の惡の汝をこらしめ汝の背の汝をせめん斯く汝が汝の神エホバをすてたると我を 畏るゝことこの汝の衷にあらざるどの惡く且つ苦きことなるを汝見てしるべしと主な る萬軍のエホバいひ給ふ、あれみや二、一九

ねがはくは主この事につきて僕をゆるしたまへ即ちわが主君リンモンの宮にいりう こにて崇拜をなしてわが手に倚ることありまた我リンモンの宮にありて身をかまむ

ることわらんわがリンモンの宮において身をかがむる時に願くのエホバの事につきて僕をゆるしたまへど、れつわうき五、一八

引照 るかでん九、六二。よねでん六、六六―六七

十一、背教者回復

もし己の罪を認めれば神の信實なる公義者なるが故に必ず我儕の罪を赦し諸の不義より我儕を潔むべし、よね一書一、九

今わが喜ぶの爾曹を愛しめしに因に非ず爾曹の愛て悔改むることを爲しに因て也なんぢら神に循ひて愛るにより我儕に少も損ひる事なしうれ神に循ふ愛の悔なきの救を得の悔改に至らしむ然世の愛の死に至しむる也、こりんど後七、九―十なんぢに到り爾の燈臺を其處より取除かん、もくしろく二、五背ける諸子よ我に歸れわれ汝の退達をいやさん視よ我儕なんぢに到る汝のわれらの

神エホバなればなり、ゑれみや三、二二

汝ゆきて北にむかひ此言を宣ていふべしエホバいひたまふ背けるイスラエルよ歸れわが怒の面を汝らにむけじわれの恤矜ある者なり怒を限なく含みをることわらじどエホバいひたまふ汝たゞ汝の罪を認めせうの汝の神エホバにうむき經めぐりてすべての青木の下にて異邦人にゆき汝等わが聲をさかざればなりどエホバいひ給ふ、ゑれみや三、二二―二三

引照 るかでん一七、三一―四〇。まへん六六、一八。全三二、五

十二、信任

なんぢの途をエホバにゆだねよ、彼によりたのまの之をなしとげん、まへん三七、

五

然バ我儕毅然して曰べし主われを助る者なれば畏なし人われに何をか行んど、へぶらう一三、六

エホバに依頼よつたむの人ひとにたよるよりも勝まさりてよし、
まへん一一八、八
悪者あしもののかなしみ多おほかれをエホバに依頼よつたむもの憐憫あはれみにてかこまれん、
まへん三三二、

一〇

視みよ神かみのわが救すくひなり、われ依頼よつたておうるところなし主まエホバのわが力ちからわが歌うたなり

エホバの亦またわが救すくひとなりたまへりと、
さびや二二、二

我われ儕らキリストにより神かみに向むかひて此かくの如ごとき信仰しんぎつあり然されど我われ儕ら己おのれに由より自みづから何なに事ことをも思おも得うるに非あらず我われ儕らの思おも得うる神かみに因より、
こりんど後のち三、四一五

引照 ぬへみや一七。 さびや二六、三一四。 しんげん一六、二〇。 全二九、五。

ゑれみや一七、七

十三、感謝

なんぢら毎ごと事に富とみたれば吝せしみなく施ほごしを行なふことを得うるなり是人これをして我われ儕らに由より神かみに感かん謝しゃせしむ、
こりんど後のち九、一一

ろの言ことば盡つくされぬ神かみの賜物たまものに因より我われ神かみに感かん謝しゃする也、
こりんど後のち九、一五

エホバに感謝かんしゃせよ、エホバの恵めぐみふかくましくてろの憐憫あはれみかぎりなし、
まへん一〇六、一

常つねに我われ儕らをしてキリストキリストに在ありて勝かちを得えしめ且かつかれを知しる香かほを我われ儕らをもて遍あまねく示あらはす神かみに感謝かんしゃす、
こりんど後のち二、一四

凡すべての事ことにつきて恒つねに我われ儕らの主なイエスキリストキリストの名なに託たくて神かみ即すなはち父ちちに謝あやすべし、
まへん五、二〇

引照 びりび四、六。 てもて前四、四。 もくしろく一一、一七

十四、頌賛

我われはめまつるべきエホバに呼よはりてわが敵てきより救すくはる、
さむる二二、四

エホバの大おほにましませば最いそもほむべきかな、ろの大おほなること尋たづねることかたし、
まへん一四五、三

願くはすべての人のエホバの恵により人の子になしたまへる奇しき事跡によりてエホバを讃稱んことを、
エヘん一〇七、八

神即ち我儕の主イエスキリストの父の願べきかな彼キリストに由て諸の靈の恵を以て天の處にて我儕を已に恵みたり、
エペう一、三

引照 いざや二五、一。 同六五、一〇。 同三五、一〇

十五、證明

イエス許すして彼に日ける、爾の家に歸り親屬に往て主の爾に行し大なる事と爾を恤みし事を告よ、
まかでん五、一九

かれ答ける、罪人なるや否われ之を知らず我の替者なりしが今日明になれる此一事を知、
よはぬ九、二五

われら前に爾曹に我儕の主イエスキリストの能力と其顯れ給ふことを告るに巧なる奇談を用ざりき我儕の親く其大なる威光を見し者なり、
ペてる後一、一六

引照 いざや四三、一〇。 まらき三二、一六。 まへん三四、四。 よはぬ一書一、三

基督信者の活動

一、畑

畑のこの世界なり、またいでん一三、三八

速かに邑の衢巷を往て貧者癡疾跛者替者などを此に引來れ僕いひける、主よ命の如く行り然と尙あまりの坐あり主人僕に日ける、道路や藩籬の邊にゆき強て人々を引來り我家お盈しめよ、
るかでん一四、二一—二三

是故に若し機會あらば衆の人に善を行へし信仰の徒お別て之を行へし、
ぶらてや六、一〇

二、勞者

うれ人の子の遠行せんとして其權を僕等に委ね各に爲べき事を任せ又關者に怠らず

守れと命じて家をさる人の如し、まかでん一三三、三四
神と偕に勞く所の我儕なんぢらに勸む爾曹神の恩を徒らに受ること勿れ、
こりんと後六、一

引照 よはねでん六、一一

三、勞働の法方

是故に我が愛する兄弟よ爾曹貞固して揺す恒に勵て主の工を務よ蓋なんぢら主に在
て其行どころの勞の徒然からざるを知らばなり、こりんと前一五、五八

凡て汝の手に堪ることの力をつくしてこれを爲せ其の汝の往んどころの陰府に工
作も計謀も知識も智慧もあることなければなり、でんだうのふみ九、一〇

引照 よはねでん六、一一

四、勞者の精神

彼戦々駭きて曰けるの主よ我に何を行しめんと爲給ふや、まどぎやうでん九、六

我またエホバの聲をきく曰く、われ誰をつかはさん誰かわれらのために往べきかと、
うのとき我いひけるわれ此にあり我をつかはしたまへ、いざや六、八

引照 ろま八、九

五、個人的傳道

婦ろの水瓶を遺して邑にゆき人々に曰ける我すべて行し事を我に告し人を來りて
觀よ此のキリストならず乎、よはねでん四、二八—二九

かの婦わが行し凡の事を彼われに告しと證せし言に因て其邑のサマリア人おほくイ
エスを信せり、よはねでん四、三九

ピリポ口をひらき此録されたる所に基きてイエスの福音を彼に宣傳ふ、まどぎや

うでん八、三五

靈ピリポに曰けるの往て此車に就ピリポ趨よりて彼が預言者イザヤの書を讀を聞こ
れに曰けるの爾の讀どころの事を曉るや彼いひけるの若われを啓く者なくば如何

で曉ることを得んや遂に請てピリポを己と同一に坐せしむ其讀をりし聖書の文の左の如し彼の羊の屠場に牽るゝ如く牽れ又羔の其毛を剪者の前にて聲を出さぬが如く其口を開かず、まどぎやうでん八、二九—三二

かれ先うの兄弟シモンに遇て曰けるハ我儕メツシヤに遇りメツシヤを譯バキリストなり即ち彼をイエスに携往しにイエス視て之に曰けるハ爾ハヨナの子シモンなり爾ハケバと稱らるべしケバを譯バペテロなり、よはねでん一、四一—四二

六、労働に要する力

蓋もし爾曹われを離るゝ時の何事をも行能ざれば也、よはねでん一五、五
我兄弟よ主および其大なる能に頼て剛健なるべしなんぢら悪魔の奸計を禦ん爲に神の武器を以て装ふべし、まどぎやう五、一〇—一一
神ハ爾曹をして常に凡の物に足ざることなく凡の善事を多く行としめん爲に諸恩を多く爾曹に賜へ得なり、こりんと後九、八

然ども聖靈なんぢらに臨に因て後爾曹能力を受エルサレムユダヤ全國サマリヤおよび地の極にまで我が證人と爲べし、まどぎやうでん一、八

七、労働の結果

穎悟者の空の光輝のごとくに輝かんまた衆多の人を義導ける者の星のごとくなりて永遠にいたらん、だにえる一二、三
穫者の其工錢を受て永生に至るべき質を積む斯て播者と穫者と共に喜むん、よはねでん四、三六
涙ととも播くもの歡喜とともに穫らん人の種をたづさへ涙をながしていでゆけど禾束をたづさへ喜びてかへりきたらん、まへん一二六、六
わが兄弟よ爾曹のうち或ハ眞の道より迷る者あらん誰か之を引反さば此人知べし罪人を其迷る道より引反すハ乃ち其靈魂を死より救かつ多の罪を掩ふことを、やこぶ五、二〇

八、福音宣傳

また天國の此福音を萬民に證せん爲み普く天下に宣傳られん然るのち末期いたるべし、またいでん二四、一四
又ろの名に託て悔改と赦罪のエルサレムより始まり萬國の民も宣傳られん、
るかでん二四、四七

是故に爾曹ゆきて萬國の民にバプテスマを施し之を父と子と聖靈の名に入て弟子とし且わが凡て爾曹に命せし言を守れと彼等に教よ夫われの世の末まで常に爾曹と偕に在りアーメン、またいでん二八、一九一〇

うれ神のろけ生たまへる獨子を賜はるに世れ人を愛し給へり此の凡て彼を信する者に亡ること無しして永生を受しめんが爲なり、よはねでん三、一六

ペテロ彼等に曰けるの爾曹おのゝ悔改めて罪の赦を得んが爲にイエスキリストの名に託てバプテスマを受よ然らば爾曹も聖靈の賜を受べしこの約束の爾曹および爾

曹の子孫また凡の遠人すなはち主たる我儕の神に召るゝ人々に屬なり、
まどぎやうでん二、三八一三九

引照へぶらい二、九。まどぎやうでん四、一二。まかでん一〇、一五。

九、献納

い、義務

爾曹價なしに受たれば亦價なしに施すべし、またいでん一〇、八
汝の糧食を水の上み投よ多くの日の後に汝ふたゝび之を得ん、
でんだうのふみ一
一、一

人に與よ然らば爾曹も予らるべし彼等量を嘉して搖いれ撼いれ溢ると迄おして爾曹の懐も納ん爾曹量る所の其量も亦人も量るべし、
るかでん六、三八

汝の中間の男の皆なんぢの神エホバの擇びたまふ處にて一年に三次即ち酔いれぬバンの節と七週の節と結茅の節とみ於てエホバの前み出べし但し空手にてエホバの

前も出べからず各人汝の神エホバを賜ひる恩恵をえたがひて其力におよぶ程の物を
獻ぐべし、三六、一六、一六—一七

ろ、誰に與ふべきや

是故に若し機會あらむ衆の人に善を行へし信仰の徒には別て之を行へし、
がらて
や六、一〇

王こたへて彼等に曰ん我まことに爾曹に告ん既に爾曹わが此兄弟の最微者の一人
に行へるの即ち我に行しなり、二五、四〇

汝の神エホバの汝に賜ふ地において若汝の兄弟の貧乏人汝の門の中にをらばうの貧
しき兄弟あひかひて汝の心を剛愎にする勿れまた汝の手を閉る勿れかならず汝の手
をひらけに開き必ずるの要むる物をこれお貸わたへてこれが乏しきを補ふべし汝慎め
心お悪き念を起し第七年放釋の年近づけりと言て汝の貧乏兄弟に目をかけざる勿れ
汝もし斯之に何をも與へずしてうの人これがために汝をエホバに訴へなむ汝罪を獲

ん汝かならず之に與ふることを爲べしまた之に與ふる時の心に惜むこと勿れ其の此
事のために汝の神エホバの諸の事業と汝の手の諸の働作とに於て汝を祝福たまふ
べければかり貧乏者の何時までも國にたゆること無るべけれを我汝を命じて言ふ汝
かならず汝の國の中なる汝の兄弟の困難者と貧乏者にとに汝の手を開くべし、三六、一五、七一—

は、何程

汝の貨財と汝がすべての産物の初生をもてエホバをわがめよ、三六、九
汝の神エホバの汝を祝福たまふ所にしたがひ汝の力に應じてうの心お願ふ禮物を獻
ぐべし、三六、一〇

三年の末に到る毎あうの年の産物の十分の一を盡く持出してこれを汝の門の内に儲
蓄ふべし、三六、一四、二八
又わが柱にたてたる此石を神の家となさん又汝がわれにたまふ者の皆必ず其十分の

一を汝にささげん、ううせいさ二八、三二

引照 ころんと後一六、二

に、心得

イスラエルの子孫に告て我に献物を持たれと言へ凡てうの心に好んで出す者より汝等うの我に献ぐるところの物を取べし、まゆつゑさぶとさ二五、二

もし人ねがふ志あらむ其無どころお循す其有どころに循て納給ふべし、ころんと後八、二二

各人うの心の中に欲ふ所お隨ひて施すべし愛て爲べからず亦強て爲べからず蓋神の喜びて施をするものを愛し給へばなり、ころんと後九、七

は、福祉

貧者をあはれむ者ハエホバに貸すなり、うの施濟ハエホバ償ひたまはん、まんげん一九、一七

われ爾曹も如此勤勞て柔弱者を扶け且主イエスの曰給へる受るよりも興るハ福也との言を心お記べきを凡の事に於て示せる也、まどぎやうでん二〇、三五

はどこし散して反りて増ものあり興ふべきを吝みてかへりて貧しきにいたる者あり、施與を好むものハ肥え人を潤はす者のまた利潤をうく、まんげん一一、二四―二五

よわき人をかへりみる者のさいひひなり、エホバ斯るものを禍ひの日にたすけたまはん、まへん四一、一

へ、摸範

イエス囊錢の箱に對て坐し人々の錢を箱に入るを見たまひしに多の富者ハ多く投入たり一人の貧き焚婦きたりてレプタ二を投入る此ハ四厘はどに直れりイエスうの弟子を召て彼等に曰けるハ誠に我なんぢらに告ん箱に投入じ凡の人々よりも此貧き焚婦の多く投入たりと彼等ハ皆その餘れる所を以て入この婦ハうの不足どころより

其すべての所有すなわち全業を盡く入れたれば也、またでん一二、四一―四四、
斯イスラエルの子孫悦んでエホバに獻納物をなせり即ちエホバがモーセに藉て爲せ
と命じたまひし諸の工事をなさしむるために物を攜へきたらんと心より願ふところ
の男女の皆是のごとくになしたり、
エホバの命じらるるごとく三二五、二九

モーセに告て言ける民餘りに多く持たればエホバが爲せと命じたまひし工事を
なすに用ふるに餘ありとモーセすなわち命を傳へて營中に宣布しめて云く男女ども
に今よりの聖所に獻納物をなすに及ばずと是をもて民の攜へきたることを止たり其
の有りどころの物すでに一切の工をなすに足て且餘われべなり、
エホバの命じらるるごとく三三六、五一―七

引照 ころんと後八、七

十、忠信

是故に我が愛する兄弟よ爾曹貞固して揺す恒に厥て主の工を務よ蓋んぢら主に在

て其行どころの勞の徒然からざるを知らばなり、
ころんと前一五、五八
小事に忠き者の大事にも忠く小事に忠からざる者の大事にも忠からず故に若んぢ
ら不義の財に忠からず誰か眞の財を爾曹に託んや爾曹もし人の所有に不義ならば
誰か爾の所有を爾に與んや、
またでん一六、一〇―一二

引照 よいね三書、五。 ころんと後二、一七。 またでん二〇、二四

十一、忠信の賞

その置給ひし基礎の外に誰も基礎を置くこと能されば也この基礎之即ちイエスキ
リストなりもし人の基礎の上に金銀寶石木艸禾稿を以て建ち各々の工の明かあ
らん夫日これを顯す可ればあり此は火にて顯れん其火おのの工の如何を試むべ
し若るの建る所の工たまたば賞を得若るの工やかれなば損を受され己の火より脱
出る如く終に救れん、
またでん三、一一―一五

また天國の或人の旅行せんとして其僕をよび所有を彼等に預るが如し各々の智慧に

從ひて或者に銀五千或者に二千或者には一千を予おき直に旅行せり五千の銀を受し者往て之を貿易し他に五千を得たり二千を受し者もまた他に二千を得たり然るに一千を受し者往て地を堀うの主の金を藏せり歴久て後うの僕等の主かへりて彼等と會計せしに五千の銀を受し者うの他に五千の銀を携來りて主よ我に五千の銀を預しが他に五千の銀を儲たりと曰ければ主かれに曰けるとあゝ善かつ忠なる僕不爾寡なる事に忠なり我なんぢに多ものを督らせん爾の主人の歡樂に入よ二千の銀を受し者きたりて主よ我に二千の銀を預しが他に二千の銀を儲たりと曰ければ主かれに曰けるのあゝ善且忠なる僕不なんぢ寡なる事に忠あり我なんぢに多ものを督らせん爾の主人の歡樂に入よ、またいでん二五、一四―二三
爾死に至るまで忠信なれ然バ我生命の冕を爾に賜へん、もくしろく二、一〇

聖靈

一、人の罪を責め又人をして罪を曉らしむ

是故に聖靈の云る如くせよ爾曹もし今日其聲を聽ば野に在て主を試みたる日うの怒を惹し時の如く爾曹心を剛愎あする勿れ、へぶら五三、七一―八
かれ來らんととき罪につき義につき審判につき世をして罪ありと曉しめん罪に就てと云るの我を信せざるに因てなり義に就てと云るの我わが父に往によりて爾曹また我を見ざれば也審判に就てと云るの斯世の主審判を受けばなり、よねでん一六、八

二、人と争ふ

エホバいひたまひけるの我靈永く人と争ひじ、ううせい六三、三
然るにかれらの悖りてうの聖靈をうれひしめたる故にエホバ翻然かれらの仇となりて自らこれを攻たまへり、ううせい六三、一〇
強項にして心と耳に割禮を受ざる者よ爾曹常に聖靈に逆ひ其先祖たちの如く爾曹も

行なり、しどぎやうでん七、五一

三、罪人の心を新にす

生命を賜る者之靈なり肉の益なし我なんぢらに曰し言の靈なり生命なり、よはねで
ん六、六三二

イエス答けるの誠に實に爾に告ん人の水と靈とに由て生ざれば神の國に入ること能
る也肉に由て生るゝ者の肉なり靈に由て生るゝ者の靈なり我なんぢに新に生るべき
事を言しを奇と爲なかれ風の己が任に吹なんぢ其聲を聞ども何處より來り何處へ往
を知らず凡て靈に由て生るゝ者も此の如し、よはねでん三、五一八

引照 てとす三、五

四、神に受納られしを證す

聖靈みづから我儕の靈と偕に我儕が神の子たるを證す、ろま八、一六
且なんぢら既に子たることを得しが故に神の子の靈を爾曹の心に遣りアバ父と呼

しむ、がらてや四、六

引照 よはね一書五、九一〇

五、信者の心に住る

爾曹の神の殿にして神の靈なんぢらの中に在すことを知る乎、こりんど前三、一
六

もし神の靈なんぢらに住む爾曹の肉に在で靈に在ん凡ろキリストの靈なき者のキリ
ストに属ざる者なり、ろま八、九
夫なんぢらの活神の殿なり神嘗て我かれらの中に住り且あゆまん我かれらの神とな
り彼等わが民とならんと曰給ひしが如く、こりんど後六、一六

六、教師

わが名に託て父の遣さんとする訓慰師すなわち聖靈の衆理を爾曹に教へ亦わが凡て
爾曹に言しことを爾曹に憶起さしむべし、よはねでん一四、二六

性來のまゝなる人の神の靈の情を受ず是かれに愚なる者と見れをなり又これを知
こと能はず蓋靈の情の靈も由て辨ふべき者なるが故なり、こりんと前二、一四

七、案内者

汝すべての途にてエホバをみとめよ、さらばなんぢの途を直たまふべし、
げん三、六

なんぢらの訓諭をもて我をみちびき後またわれをうけて榮光のうちに入たまへん、
えへん七三、二四

然と彼すなはち真理の靈の來らんとさ爾曹を導きて凡の眞理を知しむべし蓋かれ己
に由て語に非ず其開し所の事を爾曹に言また來らんとする事を爾曹に示すべけれを
也、よはねでん一六、二三

八、印

神の聖靈をして愛しむること勿れ爾曹救を得る日の爲め彼の印を受し者なり、
え

ペテロ四、三〇

爾曹も眞の道すなはち爾曹を救ふ福音を聞し後キリストを信じ我儕が業を嗣の質な
る約束の聖靈を以て印せらる神聖靈をもて印したまふ其買受し者を救ひ且おのれ
の榮を顯さんため也、えペテロ一、二三―一四

然ども神の置給ひし堅基たてり其上に印あり誌していふ主己に屬る者を知とまた云
すべて主の名を顧ものご不義を離るべしと、てもて後二、一九

凡る神の靈に導かるる者は是すなはち神の子なり爾曹が受し靈の奴たる者の如く復
び懼を懐く靈に非ずアバ父とよぶ子たる者の靈なり、ろま八、一四―一五

九、基督の證者

われ訓慰師を父より遣らん即ち父より出る眞理の靈なり其きたる時わが爲に證を
すべし、よはねでん一五、二六

彼わが榮を顯さん蓋わが屬を受て爾曹に示せむ也凡て父の有給ふもの我屬なり是

故に彼わが屬を受けて爾曹に示すと曰り、よはでん一六、一四—一五

十、信者をして善果を結ばしむ

靈の結ぶ所の果の仁愛、喜樂、平和、忍耐、慈悲、良善、忠信、溫柔、樽節かくの如き類を禁ずる律法のある事なし、がらてや五、二二—二三

十一、役者を指導す

かれら主に事て斷食なせるとき聖靈いひけるの我ためにバルナバとサウロを甄別ちて我かれらに命せし所の事を行せしめよ是に於て斷食し祈禱をなし手を二人の上に按て之を往しむ、よとぎやうでん二三、二—三

彼等フルギヤとカラテヤの地を過し時アジアに道を傳ることを聖靈に禁られ遂にムシアに近きピテニヤに往んとせしがイエスの靈これを許さざりければ彼等ムシアを経てトロアスに下れり斯てパウロ夜に於て一人のマケドニヤ人たちて己に請マケドニヤに涉て我儕を助よと曰を幻に見たり彼が幻に之を見し後われら誠に主の我儕を

してマケドニヤ人に福音を宣しめんと我儕を召給ふことを推量て直にマケドニヤに往んとす、よとぎやうでん一六、六—一〇

十三、祈禱者を助く

愛する者よ爾曹の徳を至潔き信仰の上に建て聖靈に感じて祈り、ゆだ、二〇

聖靈も亦われらの荏弱を助く我儕の祈るべき所を知らざれども聖靈みづから言がたきの慨歎を以て我儕の爲に祈ぬ、ろま八、二六

恒に各様の禱告と祈求を以て靈に由て求かつ諸の聖徒の爲にも慎みて此事をなし祈りて倦ざるべし、えへろ六、一八

十四、役者に準備を與ふ

我わが父の誓のものを爾曹に遺らん爾曹上より權を授らるる迄のエルサレムに留れ、るかでん二四、四九

或の靈によりて智慧の言を賜り或の同じ靈に由て知識の言を賜り或の同じ靈に由て

信仰を賜り或の同じ靈に由て病を醫す能を賜り或の異能を行ひ或の預言し或の靈を辨へ或の方言をいひ或の方言を譯するの能を賜れり然と凡て此等の事を行ふ者の同く一靈あり彼その心のまゝに各人に頒與るなり、こりんと前二二、八一―一

引照 ぎとぎやうでん二、四。よはね一書二、二〇。えへろ三、一六

十五、祈禱者に與へらる

かれら祈禱を畢し時々の集れるところ震動みな聖靈に満されて臆する所なく神の道を宣、

ぎとぎやうでん四、三一
然の爾曹悪者ながら善賜をうの兒曹に予るを知らして天に在す爾曹の父の求る者に聖靈を予ざらん乎、るかでん一一、二三

引照 ぎとぎやうでん一、一四。同二、二一四

神の道

一、黙示

聖書のみな神の黙示にして教誨と督責また人をして道に歸せしめ又義を學しむるに益あり、てもて後三、一六

汝のまたシナイ山の上に降り天より彼らと語ひ正しき例規および眞の律法、善き法度および誠命を之に授け、ねへみや九、二三

是故に我儕神に向ひ爾曹が我儕より神の道を聞しとき之を人の道とせず神の道として受たるを斷ず感謝す此道の誠に神の道にして爾曹信する者の中に働くなり、て

さるにけ前二、二三

引照 へてろ後一、二二。がらてや一、一一―一二。こりんと前二、二三

二、潔聖

エホバの言ひしことばなり、地にまうけたる爐にてぬり七次きよめたる白銀のことし、さへん二二、六

神の言のみな潔よし、神の彼を頼むもの、盾なり、汝らの言に加ふること勿れ、恐く、彼なんぢをせめ、又なんぢを誑る者となしたまはん、まんげん三〇、五

引照 ろま七、一二。 よはねでん一五、三

三、永久存在

うれ人の既に草の如く其榮の凡の草の花の如し草の枯るの花の落、然ど主の道の窮なく存なり爾曹に宣傳る福音の乃ちこの道あり、ペテる前一、二四―二五

われ律法と預言者を廢る爲に來れりと意ふ勿われ來て之を廢るに非ず成就せん爲なりわれ誠に爾曹に告ん天地の盡る中に律法の一畫一畫も遂つくさずして廢ること

あし、またいでん五、一七―一八

引照 よはねでん一〇、三五

四、聽て又順ふべきこと

汝ら此に近づき汝らの神エホバの言を聽けど、よしゆや三、九

是故に凡て我この言を聽て行ふ者を磐の上に家を建たる智人に譬ん、またいでん

七、二四

耳をかたふけ我にきたりてきけ汝等のたましひの活べし、われ亦なんぢらとどこしへの契約をなしてダビデに約せし變らざる恵をあたへん、いざや五五、三

なんぢら道を行ふ者となるべし徒これを聞のみおして自己を欺く者となる勿れられ道を聞のみにして之を行わざる者の鏡に向て本來の面をみる人に似たりかれ己を照し觀て去のち直に其如何なる相貌なりしかを忘る然ハ自由なる全き律法を切々に觀て離れざる者は是功を行ふ者にして聞て忘るる者に非ず斯人の行ふところ福あらん、やこふ一、二二―二五

引照 るかでん八、一五。 同八、一八。 まゆつるじぶとさ三五、一。 まんげん

五、七

五、道に由りて生るゝと

爾曹が再び生るゝの壤へき種に由に非ず壞べからざる種すなりち窮なく存つ神の活
 る道由なり、へてろ前一、二三
 かれ己の旨を循ひ眞道を以て我儕を生り是我儕をまて其造る所の物の中あて初に
 結べる果の如き者とならしめん爲なり、やこぶ一、一八

引照 玄へん一九、七。よはねでん六、六三

六、道に由りて潔らるゝと

今なんぢら我曰し言ふよりて潔なれり、よはねでん一五、三

爾の眞理をもて彼等を潔め給へ爾の言の眞理なり、よはねでん一七、一七

かれ己を捨し水の洗を以て道に因て教會を潔め之を聖なる者とせんが爲なり、

えべろ五、二六

七、救はれし者を守る力

われ汝にむかひて罪ををかすまじき爲になんぢの言をわが心のうちに藏へたり、

玄へん一一九、一一

人の行爲のことをいはと我なんぢのくちびるの言によりて暴るものゝ途をさけたり、

玄へん一七、四

引照 よはねでん一七、一四—一五。てさるにけ後三、三

八、甘く且つ養となる

みことばは滋味のわが脣にあまきこといかばかりや蜜のわが口に甘きにまされり、

玄へん一一九、一〇三

これを黄金にくらぶるも、おほくの純精金にくらぶるも彌増りてまたふべく、これ
 を蜜にくらぶるも蜂のすの滴瀝にくらぶるもいやまさりて甘し、玄へん一九、一〇
 今生れし嬰兒の乳を慕ふ如く爾曹心を養ふ眞乳を慕ふべし此由て爾曹長て救ひ至
 らんなんぢら嘗ひて主を仁ある者と知たらんふの斯の如すべし、へてろ前二、二—
 三

引照 よぶ二三、一二。 こりんと前三、二。 へぶらう五、二二―一四

九、人の徳を建

兄弟よ爾曹の徳を建かつ凡れ聖られし者の中お於て業を爾曹お子る能わる神および其恩恵れ道に今われ爾曹を委ぬ、 ぎとぎやうでん二〇、三三―

萬殊なる教と異なる教お搖蕩さるゝ事勿れ恩に由て心を堅固せられ飲食に由ざるの善し飲食に由て行ひたる者の益する所なかりき、 へぶらう一三、九

十、役 者を完成す

なんぢ神お悦ばるゝ者と爲んことを務また耻る所なき工人となりて眞 道を正しく願ち教んことを務むべし、 てもて後二、一五

我言し所また我宣し所の人れ智慧の婉 言を用ゐず唯靈と能の證を用ゐたり蓋なんぢらの信仰をして人の智慧お由ず神の能お由しめんと欲ばなり、 こりんと前二、四

一五

聖書のみな神の黙示にして教誨と督責また人をして道お歸せしめ又義を學しむるに益ありこれ神の人の完全を得て諸の善事を行ふに缺なからん爲なり、 てもて後三、一六―一七

引照 ぎとぎやうでん一七、二二―二二。 ゑれみや二三、二八―二九

い、個人的傳道に向て

また救の胃および聖靈の劍すなち神の道を取り、 えべう六、一七
ペテロこれ言を語れる間に道に道を聽どころの凡の者に聖靈降り、 ぎとぎやうでん

一〇、四四

引照 るかでん二四、二五。 同二四、三二

ろ、普通傳道に向て

然バ人の子よ我汝を立てイヌラエルの家の守望者とあす汝わが口より言を聞き我にかはりて彼等を警むべし、 ゑせきさえる三三、七

是をもて我かさねてエホバは事を宣す又その名をもてかたらじといへり然もエホバのこゝとを我心にありて火のわが骨の中に閉こもりて燃るがごとくなれば忍耐につか
れて堪難し、えれみや二〇、九

引照 ころさう三、一六

十一、道之力

うれ神の言は活てかつ能あり兩刃の劍よりも利く氣と魂また筋節骨髄まで刺し割ち
心の念と志意を監察ものなり、へぶらう四、一二

十二、約束の福祉

い、凡ての約束は貴く且つ眞實なり

また神の榮と徳に因て至大なる貴き約束を我儕み子へ給へり此の爾曹をして此約
束よ由て世ある所の怨の敗壞を脱かれ神の性質を有しめん爲なり、べてろ後一、
四

又認めす所の望を動さずして固く守るべし蓋約束せし者の誠信なれば也、へぶら
う一〇、二三

然も愛する者よ我儕この約束を得たれを肉と靈の凡の汚を去て自己を潔くし神を畏
れて聖潔ことを成就すべし、こりんと後七、一

引照 べてろ後一、四。こりんと後一、二〇。よまゆや二三、一四

ろ、罪人お向て

エホバいひたまはく、幸われらどもに論らとん、あんなららの罪の緋のごとくあるも雪
のごとく白くなり、紅のごとく赤くとも羊の毛のごとくにならん、うごや一、一八
凡て父の我お賜し者の我お就らん我お就る者の我かあらず之を棄す、よはねでん
六、二七

凡て勞たる者また重を負る者と我お來れ我おんぢらるを息ません我の心柔和おして謙
遜者なれば我軛を負て我お學なんぢら心に平安を獲べし蓋わが軛易わが荷の輕け

れば也、またいでん一一、二八一三〇

は、背教墮落者お向て

我にかへれ、われ亦なんぢらに歸らん、まらき三、七

義人の信仰お由て生べし若し退かば我が靈魂これを喜とせじ、へぶらら一〇、三八

引照 えれみや三、二二

ふ、信者に向て

イ、恩恵

ろの神エホバの日なり盾なり、エホバの恩とえいくわうとをわたへ直くわゆむもの

に善物をこそみたまふことなし、まへん八四、一一

蓋なんぢら恩の下お在て律法の下に在ざれを罪の爾曹お主となること無れは也、

ろま六、一四

神更に大なる恩恵を予ふ此に由ていふ神の驕傲者を拒き謙卑者に恩を予ふと、や

こぶ四、六

引照 こりんど後八、九。へぶらら四、一六。こりんど九、八

ロ、平安

われ平安を爾曹に遺す我平安を爾曹に予ふ我わたふる所の世の予る所の如きに非ず

爾曹心に憂る勿れ又懼る勿れ、よはねでん一四、二七

是故に我情信仰お由て義とせられたれを神と和ぐことを得たり此の吾主イエスキリ

ストお頼てなり、ろま五、一

引照 えべろ二、一三一―一五。いざや二六、三

ハ、安全

なんぢ水中をすぐるときに我どもにあらん河のなかを過るときに水なんぢの上にあ

ふれじ、なんぢ火中をゆくとき焚るることなく火燄もまた燃つかじ、いざや四三、

二

エホバのかれらを助け、かれらを解脱とくげつしたまふ、エホバのかれらを悪者あくものよりときはなちて救すくひたまふ、かれらのエホバをうの避所あひたきとすればなり、三三七、四〇

引照ひさえへん九一、七一〇。全二二五、一

ニ、祈禱いのりに向ての應答こたへ

爾曹なんぢらもし我われに居まりて我われいひし言ことなんぢらに居まりて凡すべて欲ねがふところ求もとめに從したがひて予あたらるべし、よはねでん一五、七

是故このゆゑお我われなんぢらお告つげん凡すべる祈禱いのりの時ときの求もとめふ所のもの、必ず得うべしと信ませむ必ず得うべし、まかでん一一、二四

我われまた爾曹なんぢらお告つげんもし爾曹なんぢらのうち二人ふたりのもの地ちに於おいて心こゝろを合あはせ何事なにごとあても求もとめむ天あまに在ある吾父わがちちの彼等かれらの爲ためふ之これを成なしたまふべし蓋おほわが名の爲ためふ二三人の集あつまる處ところの我われも其中そのうちお在あるをなり、またいでん一八、一九—二〇

ホ、試中こころみの保持さくへ

また凡すべての事ことの神かみの旨よびに依よりて召よめれたる神かみを愛あいする者の爲ために悉ことごとく動はたらきて益えきをなすを我儕われらの知しり、ろま八、二八

なんぢの荷にをエホバにゆだねよ、さらば汝なんぢをささへたまはん、たゞしき人のうぶかざることを常つねおゆるしたまふまじ、三へん五五、二二

引照ひさ びりび四、一九

へ、困苦中くるしみの保持さくへ

われ苦くるしまざる前まへにいまよひいでぬ、されど今いまわれ聖言みことばをまもる、三へん一一九、六七

是故このゆゑお我儕われら臆おそせず我儕われらが外となる人の壞やぶることも内うちある人の日々あまたお新あらたなり、こりん

困苦くるしみにあひたりし我われによきことなり此これによりて我われおんぢの律法りつぽうをまなびえたり、三へん一一九、七一

引照 へぶらい一二、五―六。 玄へん三四、一九

ト、安息

信ずる所の我儕の安息に入いることを得うなり、へぶらい四、三

エホバかくいひたまふ汝ら途みちに立たて見古みふるき徑みちに就つて何か善道よきみちなるを尋ねて其途みちに行いめさらば汝らの靈魂安やすを得えん然しかど彼らかれこたへて我儕われらのうれに行いまじといふ、 愚おろれ

みや六、二六

チ、氣力

エホバの民たみのちからあり、その受膏者まゆかひやのすくひの城まちあり、 玄へん二八、八

おろるとあかれ我われおんぢとともともにあり驚おどろくあかれ我われおんぢの神かみあり、われおんぢを

強つよくせん誠まことにおんぢを助たすけん誠まことにわがたしき右手みぎのてなんぢを支ささへん、 いざや四一、

一〇

リ、智慧

うのエホバの智慧ちからをあたへ、知識ちしきと聰明さとりとうの口くちより出いれいあり、 玄へん二二、六

爾曹うちの中うちもし智慧ちから足たる者ものあらと夫かの咎とがることことなく惜おぼしむことことなくして衆人あまたのひとに予あたへる神かみに

求もとめよ然しかど予あたへられん、 やこぶ一、五

引照 やこぶ三、二七

ヌ、指導

われ汝みづかをしへ汝みづかをわゆむべき途みちにみちびき、わが目めをなんぢに注といでさとしさん、 玄

へん三二、八

謙へんたるものを正義ただしきおみちびきたまはん、うの道みちをへりくたる者ものおまめしたまはん、

玄へん二五、九

ル、安慰

我われおんぢらを捨て孤子みなしことせず再またおんぢらお就きたり、 よはねでん一四、一八

母ははのうの子こをなぐさむることことなく我われもなんぢらを慰なぐさめん、なんぢらのエルサレムエルサレムにて

安慰をうべし、いざや六六、一三

頌美べきかな神即ち我儕の主イエスキリストの父慈悲の父すべての安慰を賜ふの神
神の我儕が諸般の患難の中に我儕を慰めたまふ是我儕をして神の我儕を愛めたまふ
安慰を以て又もろくの患難ををる者を慰むることを得しめん爲なり、こりんと

後一、三一四

ヲ、欣喜

此故になんぢら喜欣をもて救の井より水をくむべし、いざや一二、三

なんぢらの喜びて出きたり平穩にみちびかれゆくべし山と岡との聲をはなちて前に
うたひ野にゐる樹のみな手をうたん、いざや五五、一二

我この事を爾曹お語るの我が喜なんぢらも在て爾曹の喜を盈しめんが爲なり、よは
ねでん一五、一一

ヲ、誘惑に勝つと

是故に爾曹神に服へ悪魔を拒げ然らば彼なんぢらを逃去ん、やこぶ四、七

蓋かれ自ら誘はれて艱難を受たれば誘はるる者を助得るなり、へぶらい二、一八
忍て試誘を受る者の福なり蓋こころみを経て善とせらるる時の生命の冕を受べけれ
む也この冕の主己を愛する者に約束し給ひし所のもの也、やこぶ一、一二

カ、死に勝つと

どこしへまで死を吞たまはん主エホバのすべての面より涙をぬぐひ全地のうへより
ろの民の凌辱をのろきたまはん、これのエホバの語りたまへるなり、いざや二五、
八

此くつる者くらざる者を衣この死る者しなざる者を衣んど聖書お録して死の勝お
吞れんど有る應べし死よ爾の刺の安お在や陰府よ爾の勝の安お在や死の刺の罪なり
罪の能は律法なり我儕をして吾主イエスキリストお由て勝を得しむる神お謝す、
こりんと前一五、五四―五七

ヨ、榮光

なんぢら牧者の長の顯れん時壞ることなき榮の冠冕を得ん、へてる前五、四
我儕の命なるキリストの顯れんとき我儕も之と偕に榮の中に顯るゝ也、ころよら
三、四

タ、復活

若イエスを死より甦らしむ者の靈なんぢら住バキリストを死より甦らしむ者の其
なんぢら住むところの靈を以て爾曹が死べき身體をも生すべし、ろま八、一一
イエス彼曰ける我の復生なり生命なり我を信する者の死るとも生べし凡て生て
我を信する者の永遠も死ることなし爾これを信するや、よはねでん一一、二五一一
六
彼の萬物を己お服のせうる能ふ由て我儕が卑き體を化て其榮光の體を象らしむべ
し、びりび三、二一

引照 老どぎやうでん二六、八。 よはねでん五、二八一―二九

レ、天國

亦われらの爲に天に藏ある朽す汚れず衰へざる嗣業を得しめ給ふなり、へてる前
一、四

斯て王の右おをる者お云ん吾父お惠るゝ者よ來りて創世より以來なんぢらの爲お
備られたる國を嗣、またいでん二五、三四
また我儕をして光あある聖徒の業の分を受るお堪る者とならしめ給ふ父の恩を感謝
せんことを、ころよら一、一一

わが父の家おの第宅おほし然すば我預て爾曹に之を告べきなり我なんぢらの爲お所
を備お往もし往て我なんぢらの爲お所を備お又きたりて爾曹を我お納べし我をる所
お爾曹をも居しめんとて也、よはねでん一四、二―三

求道者助言

一、汝は罪人なり

人律法を悉く守るとも若うの一に躓かば此全を犯すなり、やこふ二、一〇
録して義人なし一人も有なしとあるが如し、ろま三、一〇

ろの人みな既お罪を犯せば神より祭を受るお足す、ろま三、二二

引照 ろま五、一二〇。 がらてや三、二二

二、罪の結果

夫凡の靈魂の我に屬す父の靈魂も子の靈魂も我に屬するなり罪を犯せる靈魂の死べし、ゑせさる一八、四

罪の價は死なり、ろま六、二三

子を信する者の窮なき生命をえ子お從ひざる者の生命を見ことを得じ且神の怒るの上お留らん、よはねでん三、三六

三、神は汝を愛す

神の即ち愛なり、よはね一書四、一六

然どキリストの我儕のなほ罪人たる時われらの爲お死たまへり神の之よりて其愛を彰し給ふ、ろま五、八

引照 よはねでん三、一六。 よはね一書四、九一〇。 全三、一六

四、救は汝の爲なり

キリストイエス罪人を救ため世お臨れり信すべく亦疑はずして納べき話なり
罪人のうち我の首なり、てもて前一、一五
彼等いひけるの主イエスキリストを信せよ然らば爾および爾の家族も救るべし、

まどぎやうでん一六、三二

神の其子を世お遣し給へるは世の罪を定んどお非ず彼お由て世を救んが爲なり、
よはねでん三、一七

是故に彼の己に頼て神に就る者の爲に懇求んとて恒に生れ彼等を全く救ひ得なり、
へぶらう七、二五

引照 志とぎやうでん四、一二。 よはね一書一、七

五、今は救の時なり

かれ曰われ慈惠の時爾爾聽また救の日爾を助たりと今の恩惠の時なり今の救の
日なり、こりんど後六、二

夫いへる言あり若し今日の聲を聽べ怒を惹し時のおとく爾曹の心を剛愎にする勿
れ、へぶらう三、一五

なんぢ明日のことを誇るなかれ、うの一日の生ずるところの如何なるを知らざればな
り、まんげん二七、一

引照 志とぎや五五、六。 全一、一八

六、救は信仰お由て来る

子を信する者の窮なき生而を之子に従はざる者の生而を見ことを得じ且神の怒りの
上に留らん、よはねでん三、三六

然と工なき者も不義なる者を義とする神を信じて其信仰を義と爲れたり、ろま四、

五

誠お實お爾曹お告ん我言をさく我を遣し者信する者は永生を有かつ審判お

至らず死より生お遷れり、よはねでん五、二四

引照 よはねでん三、一四—一五。 志とぎやうでん三二、三九

七、無用の言驛

い、信者中お偽善者多し

爾なんぞ其兄弟を罪するや何ぞ其兄弟を藐視るや我儕の皆キリストの臺前お立べき
者なり、ろま一四、一〇

イエス彼に曰ける我もし彼が存て我來る汝待を欲を爾お何の與あらんや爾の我お

從へ、よはねでん二二、二二

是故凡ろ人を議る所の人よ爾推諉べきなし爾他人を議るの正く己の罪を定る也ろ
議る所の爾も同く之を行へ也、ろま二、一

引照 いざや四五、二二

ろ、異論多し

ろの聖書何と云るかアブラハム神を信するの信仰を義と爲れたり、ろま四、三
エホバ宣給くわが思ひなんぢらの思とことなり、わが道なんぢらのみちと異なれ
り、いざや五五、八

は、支度未だなり

なんぢら恩み由て救を得これ信仰み由てなり己み由み非ず神の賜なり行に由に非ず
此の如なるの誇る者なからん爲なり、えべろ二、八―九

引照 えへん五一、一〇

お、我罪の余お大なり

うれ人の子の喪ひし者を尋て救ん爲み來れり、ろかでん一九、一〇
節筵の末の大日みイエス立て呼り曰ける人もし渴み我み來て飲、よはねでん
七、三七

エホバいひたまはく、率われらどもに論らはん、なんぢらの罪の緋のごとくなるも雪
のごとく白くなり、紅のごとく赤くとも羊の毛のごとくにならん、いざや一、一八

引照 よはね一書一、七。ろかでん一五、二

は、我罪の苦惱を感ずると猶少し

彼われらの愆のために傷けられ、われらの不義のために碎かれ、みづから懲罰を
うけてわれらに平安をあたふ、ろのうたれし瘡みよりてわれらの癒されたり、い
ざや五三、五

かれ木の上へ懸て我儕の罪を自ら己が身に任給へり是我儕をして罪み死て義み生し

めん爲なり彼の鞭扑れし由て爾曹醫れたり、
キリストも一次罪の爲に苦を受く義者不義者に代り是れを引て神に至らん爲なり彼の肉體の殺れ其靈は生されたり、
へてろ前三、一八

へ、新お生べしと云ふ意義を了解せず

凡ろイエスをキリストと信する者の神お由て生れたる也、
是故お人キリストお在とさの新お造れたる者なり
りんど後五、一七

と、我の大なる罪人にあらざ

即ちイエスキリストを信する由て其義を神の凡の信者に賜ふて區別なしの人みな既に罪を犯せば神より榮を受るに足ざ、
イエス答て曰ける誠に實に爾お告ん人もし新に生ずる神の國を見こと能はじ、

よはねでん三、三

引照 よはね一書一、一〇

ち、疑惑多し

人もし我を遣しし者の旨に従ひ此教の神より出るか又己に由て言なるかを知べし、
凡ろ子を見て之を信する者の永生を得われ復これ末の日に甦らすべし是れを遣しし者の意なれをなり、
り、世の物を見捨て難し

ろの生命を全うせんとする者の之を喪ひ我ため且福音の爲に生命を喪ふ者の之を得べければ也もし人全世界を得とも其生命を喪ひを何の益あらん乎また人何をもて其生命に易んや、
信仰に由てモーセの成長し時バロの女の子と稱るを辭たり暫く罪の樂を享んより

の寧ろ神の民と共に苦難を受んことを善としキリストの爲に受る詭諛のエジプトの

貨財たからよりも寶貴たよりのと意いへり蓋報賞せきを認みとめて望のぞむなり、へぶら5一一、二四—二六

引照 またいでん六、三三

ぬ、如何いかに爲なすべきを知らず

なんぢらエホバの恩惠めぐみふかさを嘗あじひされ、エホバによりたのむ者もののさいはひなり、

まへん三四、八

凡すべて主なの名なを願ねがふ者ものの救すくはるべし、ろま10、一三

引照 いざや五五、七。まんめいき四、二九。よはねでん六、二八—二九。ろま

四、五

る、信しんずると能あたはず

彼かれを信しんずる者ものの罪つみに定さだめられず信しんせざる者ものの既すでに其罪そのつみさだまれり蓋神おほいの生うたまへる獨ひとり子この名なを信しんせざるに因より、よはねでん三、一八

引照 へぶら5一一、一六。よはね一書五、一〇

を、猶便宜なほべんぎの時ときを待まちん

まはしく責せまられてもなほ強項かたくななる者ものの救すくはるゝことなくして猝然はつぜんに滅ほろぶれん、ま

んげん二九、一

パウロ公義たてまと擗節つしと來きたんとする審判さんぱんとを論ろんせしかのペリクス懼おそれて答こたへるの爾おのれ退ひく

け我便時よきときを得えば再またなんぢを召めん、まときやうでん二四、二五

アグリツバパウロに曰いけるの爾おのれを勸すすめて容易たやすキリステアンと爲なすとす、まとき

やうでん二六、二八

引照 だみえる五、二七。へぶら5三、七。こりんと後六、二

八、聖書研究せいしよけんきうの必要ひつぎやう

なんぢの聖言みことばのわがあしの燈火とうしわが路みちのひかりなり、まへん一一九、一〇五

なんぢら聖書せいしよに永なが生いきありと意いて之これを探索たんさくこの聖書せいしよの我われについて證あかしする者ものなり、

よはねでん五、三九

かつ幼少ときより聖書を識し知べなり聖書ハ爾をしてキリストイエスを信ずるに因て救を得しめん爲に智慧を予ふるもの也、
てもて後三、一五

附録

實地 基督信徒の義務

一、教會に屬すべし

其時この言を聞納し者のバプテスマを受たり是日弟子に加れる者おはより三千人、
まどぎやうでん二、四一
神を讚美すべての民に悦むる主すくゆる者を日々教會に加たまへり、
まどぎやうでん二、四七
ルツいひけるの汝を棄て汝をはなれて歸ることを我に催すなかれ我の汝のゆくどこ

るに往き汝の宿るところにやどらん汝の民のわが民汝の神のわが神なり、
るつ一、

一六

茲にモーセウの外舅なるミデアニ人リウエルの子ホバブに言けるハ我儕ハエホバが
嘗て我これを汝等に與へんと言たまひし處に進み行なり汝も我儕とともに來れ我儕
汝を去て幸福ならしめん其ハエホバイスラエルに福祉を降さんと言たまひたればな
り、
みんすうき一〇、二九

引照 まどぎやうでん一一、二四。 全五、一四

二、バプテマスを受くべし

是故に爾曹ゆきて萬國の民にバプテマス汝施し之を父と子と聖靈の名に入て弟子と
し、
またいでん二八、二九

斯時イエスヨハ子にバプテマスを受んとてガリラヤよりヨルダンに來り給ふ、
また
たいでん三三、三三

イエスバプテマスを受けて水より上れるとき天忽ち之が爲にひらけ神の靈の鳩の如く降て其上に來るを見る、またいでん三、一六

引照 まかでん一六、一六。 まどぎやうでん九、一八。 全一六、三三。 ろま六、三〇。 へてろ前三、二一

三、聖晚餐を守るべし

彼等の常に使徒等の教訓をうけ交接をなしパンを擘こと祈禱とを務む、 まどぎやうでん二、四二

爾曹このパンを食し此杯飲ことに主の死を表して其來る時まで及びなり、 ころんと前一、二六

人みづから省みて後うけパンを食し其杯を飲べし宜に合すして食飲する者の其食飲み由て自ら罰を招くなり蓋主の體を辨へざるお因、 ころんと前一、二八—二九

かれら食する時イエスパンを取て祝し之をささ弟子に予て曰けるの取て食これの我

身なりまた杯を取て謝し彼等に予て曰けるの爾曹みな此杯より飲これ新約の我血にして罪を赦さんとて衆の人の爲お流所のもの也、 またいでん二六、二六

引照 ろかでん二二、一九—二〇

四、兄弟の愛を働かすべし

兄弟の愛をもて互に愛し禮義を以て相譲り、 ろま二二、一〇

兄弟を愛する事に就て我なんぢらお書贈るお及む蓋なんぢら互に愛することを親く神より教へられたれ也、 てさろおけ四、九

われ新 誠を爾曹に予ふ即ち爾曹相愛すべしとの是なり我なんぢらを愛する如く爾曹も相愛すべし爾曹もし相愛せば之お因て人々爾曹の我弟子なることを知べし、

よはねでん一三、三四—三五

引照 へてろ前一、二二。 よはね一書二、一〇。 同四、二〇。 同三、一四。 同四、七一八。 へてろ前四、八。 ろま一三、八。 てもて前一、五。 がらてや五、一四。

へぶらり二三一

玉手箱

誠命章.....まゆつあじぶとま二〇

祝賀章.....まんめさ一六

祈禱章.....よはねでん一七

岩章.....まんめいさ三二

勸勞章.....やこぶ二

パン章.....よはねでん六

バプテスマ章.....またいでん三

兵卒章.....えべろ六

平安と約束.....よはねでん一四

ペンテコステ.....まどぎやうでん二

謙遜章.....るかでん一八

へろテ章.....まどぎやうでん二二

同住章.....よはねでん一五

浪費者章.....まへん五一

富人章.....るかでん一六

知識章.....るかでん一一

誓約章.....みんすうさ三〇

勿 忍章.....いざや四一

律法章.....ろま七

可驚章.....まへん一四

我々すべし章.....はせゆ二

家族章……………ころさい三
 道德家章……………まへん一四
 斷食章……………いざや五八
 大詩篇章……………まへん一一九
 旅人詩……………まへん一二一
 尋求章……………あもす五
 タルソのパウロ章……………まどぎやうでん九
 播種人章……………るかでん九
 恩賜章……………こりんど前一二
 レバイバル章……………よえる二
 創造章……………ううせいき一
 妻章……………まんげん三一

奉事章……………るかでん一〇
 罪人章……………るかでん一九
 困苦者章……………いざや五三
 對立章……………るかでん一七
 生所章……………るかでん二
 美麗章……………またいでん五
 失れて又見出されし章……………るかでん一五
 悔改章……………るかでん一三
 回復章……………みか四
 愚人章……………まんげん二六
 安息章……………へぶらい四
 貧人章……………るかでん一四

マセドニヤ章……………まどぎやうでん一六
 献身章……………ろま二二
 結婚章……………えへう五
 不信墮落章……………えれみや三
 フェリックス章……………まどぎやうでん二四
 フェスタス章……………まどぎやうでん二五
 不撓節章……………まんげん二三
 剛氣章……………よまゆや一
 コルチリヤス章……………まどぎやうでん一〇
 懲戒章……………へぶら五二二
 役者章……………あせむる三四
 天國章……………もくまろく二二

更改人章……………うぢや二二
 愛章……………こりんと前二三
 アグリッパ章……………まどぎやうでん二二
 注油章……………まゆつるじぶとま三〇
 娼妓章……………まんげん七
 安全詩……………まへん九一
 慈悲詩……………まへん二三六
 福祉章……………まんめいさ二八
 審判章……………るま二四二
 聖潔章……………みんすうき二九
 教師章……………るかでん六二
 今日章……………へぶら五三

來れ章……………らざや五五
 義務章……………あせまる三三
 偽善者章……………またいでん三三
 警醒者章……………あかでん二一
 ミレニアム章……………もくきろく二〇
 十分の一章……………まらる三三
 信仰章……………いぶら五二
 勝利章……………ろま八
 執事章……………まどぎやうでん六
 質問章……………るかでん二〇
 昇天章……………まどぎやうでん一
 實業家章……………まんげん八

びりび章……………まどぎやうでん八
 朝笑者章……………まんげん一
 品性章……………よぶ二九
 悲嘆章……………るかでん二二
 牧者章……………よはねでん一〇
 火の爐章……………だにえる三
 聖別章……………こりんと後六
 説教師章……………らざや一六
 救章……………るかでん二三
 逾越章……………まどいあじぶとせ二二
 ステパノ章……………まどぎやうでん七
 兩亦の劔 終

明治廿九年七月十六日印刷
明治廿九年七月十九日發行

編纂者

鵜

飼

猛

東京麹町區平河町五丁目十六番地

發行者

清

水

俊

藏

東京橋區銀座四丁目二番地寄留

印刷者

村

岡

平

吉

橫濱市太田町五丁目八十七番地

印刷所

橫

濱

分

社

東京印刷株式會社
橫濱市太田町六丁目九十四番地

發行所

教

文

館

東京橋區銀座四丁目二番地

